

8. 教育改善

- ① 授業計画(シラバス)…………… すべての学部・研究科と専門学校で作成しており、学生に冊子を配付しているほか、web でも閲覧できる。カリキュラムに含まれる全ての授業科目について、授業科目の概要、学習目標、各回の学習内容と課題、成績評価の方法や基準、学習の準備などが示されており、学生には授業に臨む際の指針となっている。
- ② FD活動…………… 全学 FD 委員会を設置し、教育研究に携わる教員の資質向上と能力開発を目的として FD 研修や各種研修への教員の派遣などを行っている。また、各学部・研究科の FD 委員会主催による FD 活動も活発に行われている。
- ③ 授業評価アンケート…………… 授業方法の改善と開発を目的として、学生による授業評価アンケートを実施しており、教員はアンケート結果を参考にして次年度以降の講義に役立てている。
- ④ 授業公開(参観)…………… 授業改善と教育力の向上を目的として、教員相互間の学び合いと位置付けられる「授業公開(参観)」を実施し、「授業参観カード」による意見交換を通じて授業担当者の更なる授業改善に役立てている。
- ⑤ 教育向上・改善プログラム…… 2015年度から、本学の教育の改革・改善をすすめることを目的に、学内公募による「教育向上・改善プログラム」を実施し、教育の質の向上、改善に資する取り組みを支援している。

(1)授業計画(シラバス)

各学部・研究科、専門学校でシラバスを編集、発刊しており、教務日程や授業時間割をはじめ、授業の概要、学習(到達)目標、授業回ごとの学習(授業)内容、事前学習の指示、成績評価の方法、教科書、参考書、参考文献等について学生に情報を提供している。また、各学部教育課程をカリキュラムマップあるいはカリキュラムツリーとして明示しているほか、教員のオフィス・アワーなども掲載している。また、大学ホームページでは、各学部等のシラバス PDF 版が閲覧できる。

シラバスの主な活用方法

- ・学生の科目選択のための情報提供
- ・学生の事前学習のための情報提供
- ・学部のカリキュラム検討の資料
- ・図書館の蔵書購入のための基礎資料

(2)学生生活アンケート

学生生活アンケートについては、2014 年度以前は概ね 4 年毎に調査を実施してきたが、2014 年度からは、全学的な学生の傾向を分析すること、学生の学修状況の実態や学修行動を把握し、本学の学修環境や教育力の向上・改善に資するため、毎年度調査を行うこととしている。

アンケート項目は、学習時間、学内施設・サービスの利用状況や満足度、アルバイト・サークル活動等の状況等で 2017 年度の主なアンケート結果は以下のとおりである。

1. 回答数 2,561 名(回答率 79.2% 2018.8.1 現在 歯科衛生士専門学校分を除く)

2. 主なアンケート結果

①週あたりの授業や実験・実習等に出る時間

	人数	割合(%)
4 時間未満	239	9.3
4～8 時間	359	14.0
8～12 時間	250	9.8
12～16 時間	320	12.5
16～20 時間	440	17.2
20 時間以上	903	35.3
無回答・無効等	50	2.0
合計	2,561	

②一日あたりの学習時間(予習・復習含む)

	試験期間以外		試験前・期間中	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
1 時間未満	1,329	51.9	92	3.6
1～3 時間	976	38.1	356	13.9
3～6 時間	188	7.3	954	37.3
6～8 時間	40	1.6	630	24.6
8 時間以上	21	0.8	509	19.9
無回答・無効等	7	0.3	20	0.8
合計	2,561		2,561	

③一日あたりのインターネット利用時間(スマホ・タブレット・携帯等含む)

	学習を目的とした利用		学習以外を目的とした利用	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
利用しない	460	18.0	62	2.4
1 時間未満	1,316	51.4	256	10.0
1～2 時間	492	19.2	709	27.7
2～4 時間	150	5.9	913	35.7
4 時間以上	110	4.3	606	23.7
無回答	33	1.3	15	0.6
合計	2,561		2,561	

④アルバイト等の週あたりの平均時間

	アルバイト		学内サークル活動		学外サークル、ボランティア活動	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
1 時間未満	137	5.4	371	14.5	215	8.4
1～6 時間	382	14.9	632	24.7	219	8.5
6～12 時間	472	18.4	187	7.3	56	2.2
12～18 時間	406	15.9	57	2.2	19	0.7
18 時間以上	236	9.2	19	0.7	7	0.3
していない	928	36.2	1,295	50.6	2,045	79.9
合計	2,561		2,561		2,561	

(3)授業評価アンケート(学生対象)

全学FD委員会では、2000 年度から学生による授業評価アンケートを試行し、2004 年度からは、試行時の設問項目を見直したうえ刷新して、本実施している。

2014 年度には、それまでの設問項目と内容の全面的な見直し作業を行い、その結果に基づき、2015 年度からは、改訂後の新項目によりアンケートを実施している。

アンケート結果は、担当教員にフィードバックするとともに、学内専用サイトに開示しており、授業方法や内容等の改善などへの活用を図ることが期待される。

学 部	時期	実施科目数		
		2017 年度	2018 年度	対前年度増減
薬学部	前期	63	47	－16
	後期	44	44	0
歯学部	前期	56	56	0
	後期	49	47	－2
看護福祉学部	前期	86	86	0
	後期	81	86	＋5
心理科学部	前期	25	23	－2
	後期	29	21	－8
リハビリテーション科学部	前期	99	99	0
	後期	84	85	＋1
計	前期	329	311	－18
	後期	287	283	－4
大 学 合 計		616	594	－22
歯科衛生士専門学校	前期	18	18	0
	後期	16	0	－16

2018 年度授業評価アンケート結果(全学部平均/自由意見を除く)

評価:1.強くそうは思わない 2.そうは思わない 3.どちらともいえない 4.そう思う 5.強くそう思う

自己評価	2017 年度		2018 年度	
	前期	後期	前期	後期
1 この授業に費やした自己学習時間は、週に 1 時間未満(1)、1 時間以上～3 時間未満(2)、3 時間以上(3)	1.48	1.46	1.46	1.45
2 自分はこの授業に意欲的に取り組んだ	3.81	3.82	3.79	3.83
3 この授業を受けるために、シラバスを有効に活用した	3.43	3.44	3.35	3.44
4 シラバスで求める授業の履修目的を達成できた	3.62	3.66	3.58	3.66
5 授業により、新しい知識、考え方、技能を修得でき、さらに勉強したくなった	3.84	3.86	3.81	3.86
授業について				
1 授業はシラバスにそって体系的に行われていた	3.97	3.99	3.96	3.99
2 教員の熱意が伝わった	4.15	4.18	4.13	4.15
3 授業での声の聞きやすさ、板書やスライドの文字等の見やすさは適切だった	4.04	4.07	4.03	4.06
4 授業は、理解しやすいよう工夫され、わかりやすく進められた	4.03	4.08	4.04	4.06
5 テキスト、プリント、スライド、IT機器などを適切に利用し、理解に役立った	4.06	4.10	4.07	4.09
6 教員は、学生の質問(授業時間外を含む)・発言等に適切に対応した	4.09	4.12	4.08	4.10
7 授業は適切な速さで行われた	4.05	4.09	4.06	4.07
8 適切に授業外学習(レポート、宿題、自習)などを課した	4.00	4.03	3.99	3.99
9 学んだ分野や関連する分野への関心が広がる授業であった	4.07	4.11	4.05	4.08
10 価値のある授業であった(総合的に良い授業であった)	4.15	4.18	4.13	4.14
※ 11 と 12 は 教員の自由設問のため割愛				

(4) 授業公開(参観)

授業公開(参観)制度は、授業を公開(参観)することで授業担当者の更なる授業改善と教育力の向上に資すると共に、学生の学習効果を高めることを趣旨・目的として、2012 年度より本実施をしている。教員相互間の学び合いのシステムとして捉え、学生にとって魅力ある学びの多い授業を提供し、組織的教育の確立を目指し更なる促進が期待される。

授業公開(参観)実施状況

期	学部等	2017 年度								2018 年度							
		公開科目数 (のべ講義数)	参観者実数(所属学部内訳)							公開科目数 (のべ講義数)	参観者実数(所属学部内訳)						
				薬	歯	看	心	リハ	衛			薬	歯	看	心	リハ	衛
前期	薬学部	3 (6)	24	24						3 (6)	14	14					
	歯学部	6 (29)	11		11					6 (12)	9		9				
	看護福祉学部	5 (14)	5			5				13 (74)	12			12			
	心理科学部	4 (12)	7		1		6			4 (11)	3				3		
	リハビリテーション科学部	8 (20)	7					7		10 (52)	10				1	9	
	全学部共通	1 (10)	2		1		1			1 (10)	2			1	1		
	歯科衛生士専門学校	1 (1)	1						1	0 (0)	0						
	計	28 (92)	57	24	13	5	7	7	1	37 (165)	50	14	9	13	5	9	0
後期	薬学部	3 (17)	4	4						3 (17)	5	5					
	歯学部	5 (14)	10		9	1				4 (8)	4		4				
	看護福祉学部	15 (38)	16		1	15				10 (20)	9			9			
	心理科学部	5 (5)	5				5			2 (2)	2				2		
	リハビリテーション科学部	3 (13)	3	1			1	1		10 (39)	7		1			6	
	全学部共通	0 (0)	0							0 (0)	0						
	歯科衛生士専門学校	0 (0)	0							0 (0)	0						
	計	31 (87)	38	5	10	16	6	1	0	29 (86)	27	5	5	9	2	6	0
合計	薬学部	6 (23)	28	28						6 (23)	19	19					
	歯学部	11 (43)	21		20	1				10 (20)	13		13				
	看護福祉学部	20 (52)	21		1	20				23 (94)	21			21			
	心理科学部	9 (17)	12		1		11			6 (13)	5				5		
	リハビリテーション科学部	11 (33)	10	1			1	8		20 (91)	17		1		1	15	
	全学部共通	1 (10)	2			1	1			1 (10)	2			1	1		
	歯科衛生士専門学校	1 (1)	1						1	0 (0)	0						
	計	59 (179)	95	29	23	21	13	8	1	66 (251)	77	19	14	22	7	15	0

(5) 教員ハンドブック

教員ハンドブックは、特に、新たに私立大学の教員として就任した者に必要となる教育活動、研究活動、管理運営等に関する様々な情報を 1 冊の冊子に取纏め、1999 年 3 月に初版を発行した。その後、FD 活動の活性化に伴い、本学が医療系総合大学であることや教育の課題、入学生の特色等を考慮した内容を取り入れ「FD ハンドブック」として 2003 年 3 月に第 2 版を発行した。なお、2013 年度に、全面的に項目と内容の見直しを行い、Web 上で公開している。

(6) FD ニュースレター

教員の FD に対する意識を高め、教員相互の FD に関する情報の提供・交換の場とするため 2001 年 3 月に創刊し、全教職員に配付しており、FD に関わる情報発信の拠点と位置付けるものである。2017 年度の第 18 号では、全学 FD 委員会ならびに各学部・学校等の FD 活動の取り組み、授業公開(参観)の実施状況そのほかについて報告する。

(7) FD 研修

ファカルティ・ディベロップメント(Faculty Development, FD)とは、授業内容・方法等の改善・向上をはじめとして、教育・研究の改善等の職能開発のための活動への組織的取り組みである。FD 研修は、FD 活動の一環として、教員の資質向上と能力開発等を目的に実施され、全学 FD 委員会のほか各学部・研究科 FD 委員会による取り組みが活発に行われている。

① 新任教員研修

全学 FD 委員会主催による新任教員研修は、2004 年度から実施しており、新規採用の教員を対象に、本学の使命等について理解を深めるとともに、それをふまえて、本学の最近の動向と現状等にそった教員としての在り方や大学における役割等を認識し、学生を中心とした教育を目指す観点から、教育内容を検討するとともに、学生が能動的に学ぶための具体的行動目標を設計できることなどを目的としている。

【2019 年度 全学FD研修(基本編)】

開催日時: 2019 年 4 月 4 日(木) 10:00-16:30

開催場所: 当別キャンパス 中央講義棟

参 加 者: 2019 年度4月1日付け新規採用教員及び前年度中途採用教員 26 名 ・全学 FD 委員:12 名

テ ー マ: 学生を中心とした教育をすすめるために -北海道医療大学のユニバーシティ・アイデンティティについて考える-

開催内容: ① 講話(副学長)「医療系総合大学教員としての使命と目標 -新医療人育成の北の拠点を目指して-」

② ミニレクチャー「シラバス(授業計画)について」

③ 参加者自己紹介/グループづくり

④ ワークセッション「北海道医療大学のユニバーシティ・アイデンティティについて考える」

⑤ 全体発表・討論

②FD 研修

【2018 年度 全学FD研修(テーマ編)】

開催日時: 2018 年 8 月 3 日(金) 9:50-16:45

開催場所: 当別キャンパス・中央講義棟

テ ー マ: 学生を中心とした教育をすすめるために -多職種連携をすすめるための教育の構築-

開催内容: ① 学長講話「北海道医療大学がめざす多職種連携教育について」

② 話題提供「各学部における多職種連携教育の取り組み」

③ ワークショップ「多職種連携のアドバンス教育科目をつくる」

④ 全体発表・討論

FD 研修(テーマ編)参加者数[FD 委員(委員長を除く)を含む]

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
薬学部	7	7	7	5	7
歯学部	6	6	6	6	8
看護福祉学部	5	5	5	6	6
看護学科	5	5	5	4	2
臨床福祉学科	3	2	2	2	3
心理科学部	2	—	—	—	—
臨床心理学科	4	5	3	2	3
言語聴覚療法学科	6	4	4	2	2
リハビリテーション科学部	—	2	1	3	2
理学療法学科	—	—	—	—	2
作業療法学科	4	3	8	7	2
言語聴覚療法学科	—	—	—	—	—
新学部設置準備室	2	—	—	1	1
大学教育開発センター(*)	—	3	—	—	2
予防医療科学センター(個体差医療科学センター)	—	—	—	—	—
歯科衛生士専門学校	2	—	—	—	2
事務局	—	3	2	—	—
学生(SCP)	—	—	—	—	1
計	44	42	43	38	41

*:各学部の大学教育開発センター所属の教員は「大学教育開発センター」に計上

【2018 年度 FD 研修(セミナー・講演会)】(2018 年度実施状況[各学部・研究科 FD 委員会 主催との共催を除く])

No.	開催日時	実施内容	講師	参加者数
1	11 月 20 日(火) 17:10~19:05	全学 FD セミナー(総合図書館共催) 世界最大級の文献データベース Scopus 講習会 基礎編・応用編	ELSEVIER Japan 担当者	教員・学生 61
2	2 月 6 日(水) 17:15~18:30	全学FD講演会(国際交流推進センター共催) 全学的な国際交流の更なる推進に向けて -歯学部における国際交流の現状と課題-	斎藤歯学部長 安彦国際交流推進センター長	教員 12
3	3 月 4 日(月) 15:00~17:00	全学 FD 講演会(IR 推進センター共催) 臨床研究支援の現状と課題 -医療大学で研究を推進するために必要なこととは-	岡田 栄作 (浜松医科大学 医学部 臨床研究 管理センター)	教員 31 大学院生 4 職員 4

③各学部・研究科 FD 活動(2018 年度 実施状況)

【薬学部・薬学研究科】

No.	開催日時	実施内容	講師等	参加者数
1	7 月 10 日(火) 16:00~17:00	第 26 回薬学教育・研究談話会[学部・研究科 FD] ① 尿毒症物質による薬物の体内動態への影響 ② 消化管吸収予測システムによる後発医薬品の薬剤学的 同源性評価 他 ~医療大に来る前の話を中心に~	① 市村助教 ② 下山助教	教員 38 学生 10

No.	開催日時	実施内容	講師等	参加者数
2	7月13日(金) 16:00～17:30	薬学部 FD セミナー[学部 FD] 精神医学入門 -正常と病気の違いから病気の生物学的基盤まで-	朴 秀賢 (神戸大学大学院)	教員 29 大学院生・学生 10 職員 1
3	7月27日(金) 16:00～17:30	薬学部 FD セミナー[学部 FD] 多職種連携教育について	平井みどり (本学客員教授・神戸大学名誉教授)	教員 46 学生 5 職員 3
4	9月19日(水) 16:00～17:30	薬学研究科 FD セミナー[研究科 FD] 臨床研究法について-患者さんと共に実施する-	吉田 淳 (厚生労働省医政局研究開発振興課 治験推進室長)	教員 58 職員 6
5	11月13日(火) 16:00～17:00	第27回薬学教育・研究談話会[学部・研究科 FD] ①薬学英語教育にメディアを活用する ②生物学の講義、自然科学実習における取り組み ③基礎生物学演習、基礎生理学の講義における取り組み	①足利准教授 ②近藤(朋)准教授 ③新岡准教授	教員 38 学生 3 職員 1
6	2月18日(月) 14:00～15:00	薬学研究科 FD 講演会[研究科 FD] アメリカ思春期急性期病棟での治療	斎藤恵真 (The Zucker Hillside Hospital【New York】精神科)	教員 33 学生 2 職員 2

【歯学部・歯学研究科】

No.	開催日時	実施内容	講師	参加者数
1	4月6日(金) 17:30～18:45	第1回歯学部 FD 研修会[学部 FD] 111 回国家試験の分析と112 回国家試験に向けての傾向と対策	青木敏、中本恵太郎 (DES 歯学教育スクール)	教員 72 大学院生 4
2	5月9日(水) 17:15～19:00	第2回歯学部 FD 研修会[学部 FD] 各分野における111 回国家試験の分析と112 回国家試験に向けての対策	歯学部国家試験対策実行委員	教員 77 大学院生 7
3	12月4日(火) 17:15～18:30	歯学部 FD 研修会[学部・研究科 FD] 歯学部における国際交流の現状と課題 -全国的な国際交流の更なる活性化に向けて-	斎藤歯学部長 安彦国際交流推進センター長	教員 62 大学院生 4
4	1月15日(火) 17:15～18:30	第3回歯学部 FD 研修会[学部・研究科 FD] 留学生と国際交流	江藤一洋 (東京医科歯科大学名誉教授)	教員 37 大学院生 5

【看護福祉学部・看護福祉学研究科】

No.	開催日時	実施内容	講師	参加者数
1	6月9日(土) 10:00～12:00	看護福祉学研究科 FD セミナー[研究科 FD] 公衆衛生学の歴史および疫学的視点	三宅浩次 (札幌医科大学名誉教授)	教員 14 大学院生 4 学外 4
2	7月24日(火) 17:00～18:30	看護福祉学部FDセミナー[学部 FD] 実習指導に役立つ感染管理の最新知識 ～症状からみる感染管理～	塚本教授 石角講師	教員 28
3	10月24日(水)	看護学科FD研修会[学科 FD] エデュカフェ:学部の将来を考える～養成する人材・めざす教育	-	教員 7
4	10月30日(火)	看護学科FD研修会[学科 FD] エデュカフェ:学部の将来を考える～養成する人材・めざす教育	-	教員 8
5	11月12日(月) 19:00～20:30	看護福祉学研究科FDセミナー[研究科 FD] 韓国における障害学生支援の現状と課題	李 養淑(韓国:忠北大学障がい学生 支援センター)	教員 12 大学院生 12 学外 12
6	11月27日(火) 18:00～19:30	看護福祉学部 FD セミナー[学部 FD] e ポートフォリオシステムを活用した看護学教育 -システムの概要・教員体制づくりと今後の課題-	梶井文子 (東京慈恵会医科大学医学部看護 学科)	教員 24 大学院生 2
7	12月11日(火) 17:10～18:30	看護福祉学部FDセミナー[学部 FD] 地域共生社会時代における社会福祉教育のあり方	大原裕介 (本学客員教授・社会福祉法人ゆう ゆう理事長)	教員 37 大学院生 2
8	12月14日(金) 9:00～11:00	臨床福祉学科FD研修[学科 FD] エデュカフェ:学部の将来を考える～養成する人材・めざす教育 助教編①	-	教員 4
9	1月8日(火) 14:15～15:50	臨床福祉学科FD研修[学科 FD] エデュカフェ:学部の将来を考える～養成する人材・めざす教育 助教編②	-	教員 4

No.	開催日時	実施内容	講師	参加者数
10	1月10日(木) 10:00～12:00	臨床福祉学科FD研修[学科 FD] エデュカフェ:学部を考える～養成する人材・めざす教育 准教授・講師編①	-	教員 7
11	1月18日(金) 14:00～17:00	臨床福祉学科FD研修[学科 FD] エデュカフェ:学部を考える～養成する人材・めざす教育 准教授・講師編②	-	教員 7
12	2月5日(火) 12:40～14:00	臨床福祉学科FD研修[学科 FD] エデュカフェ:学部を考える～養成する人材・めざす教育 教授編	-	教員 7
13	2月9日(土) 14:00～17:00	看護福祉学部 FD セミナー[学部 FD] 人権感覚の醸成と実習教育 1)人権感覚の醸成と実習教育 2)人権は闘いとるもの ～弁護士活動と人権感覚の醸成～ 【指定発言・全体意見交換】 ①医療福祉現場での実習指導から ②児童福祉の現場経験を踏まえて	1)鈴木(幸)教授 2)内田信也 (北海道合同法律事務所 弁護士) ①上田 学 (新さっぽろ脳神経外科病院 MSW) ②片山助教	教員 11 大学院生・学生 18 学生 22

【心理科学部・心理科学研究科】

No.	開催日時	実施内容	講師	参加者数
1	3月19日(火) 15:00～16:00	心理科学部・心理科学研究科 FD 研修会[学部・研究科 FD] コミュニケーション教育における主体的・対話的で深い学び (アクティブラーニング)とルーブリック評価の実際	石垣則昭 (北海道アクティブラーニング協会 顧問)	教員 32 職員 1

【リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科】

No.	開催日時	実施内容	講師	参加者数
1	6月9日(土) 13:30～16:00	第1回リハビリテーション科学部FD研修会[学部 FD] 臨床実習指導者視点での臨床実習の課題と対応策	小林 賢 (慶応義塾大学病院リハビリテーション 科)	教員 14
2	8月9日(木) 14:00～15:00	第2回リハビリテーション科学部FD研修会[学部 FD] 指定規則の改正と臨床実習の在り方	佐藤助教	教員 24
3	9月25日(火) 16:00～17:50	第3回リハビリテーション科学部FD研修会[学部 FD] 地域連携を考える -北海道医療大学と社会福祉法人の協働-	大原裕介 (本学客員教授・社会福祉法人ゆう ゆう理事長)	教員 20
4	11月8日(木) 17:15～19:00	第4回リハビリテーション科学部FD研修会[学部 FD] 吃音症のある学生が貴学科を希望したらどう対応しますか？	菊池良和 (九州大学病院 耳鼻咽喉・咽頭部 外科)	教員 25 学生 5 学外 1
5	11月9日(金) 16:00～18:00	第5回リハビリテーション科学部 FD 研修会[学部 FD] 【講演】実習事例を通じて合理的配慮について考える ～配慮を必要とする学生への関わり方の工夫～ 【ワークショップ】難渋する学生に対する指導方法 ～複数の難渋事例を通じての客観的な対応策の立案～	吉田 忍 (赤平市立赤間小学校通級指導室)	教員 17
6	11月30日(金) 17:10～19:00	第6回リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科 FD研修会[学部・研究科 FD] 作業療法の研究動向と論文投稿の留意点	新宮尚人 (聖隷クリストファー大学リハビリテ ーション科学部)	教員 17 大学院生 2

【大学教育開発センター】

No.	開催日時	実施内容	講師	参加者数
1	3月13日(水) 10:00～11:30	全学教育懇談会(IR 推進センター共催) 新入生の多様化に対応する教養教育・基礎教育・多職種連携教育 ①多様化する学生と英語教育 -現状と課題- ②多様な学習背景を持つ新入生の専門教育への橋渡し -基礎化学を例として- ③「主体的・対話的で深い学び」のルーブリック評価 -多職種連携入門における自己評価・第三者評価-	① 足利准教授(薬学部) ② 堀内講師(薬学部) ③ 安部教授(心理科学部)	教員 60

④教職員派遣研修(2018 年度実施状況)

No.	セミナー等名称	日程	会場	主催	本学参加者
1	第 68 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会	8/23(木) ～8/24(金)	室蘭工業大学 (室蘭)	東北・北海道地区大学等 高等・共通教育研究会	看護福祉学部/大学教育開発センター 森田教授・薄井教授、薬学部/大学教育 開発センター 足利准教授
2	学士課程教育の質保証実現に向けて	9/13(木) ～9/14(金)	大正大学 (東京)	大学 IR コンソーシアム	心理科学部/大学教育開発センター 安部教授
3	大学評価・IR 担当者のための初歩的な統計講座	12/15(土)	NTT データ数理システム (東京)	日本計算機統計学会	IR 課/細川係

(8)教育向上・改善プログラム

「教育向上・改善プログラム」は、本学で行われる教育の質の向上または改善に資する取組を支援することにより、教育の改善・改革を進めることを目的に、学長裁量経費である重点配分教育・研究費の一部を原資に、学内公募による競争的資金に係る事業として、2015 年度(公募開始は 2014 年度)から実施している。

本プログラムの概要は以下のとおり。

- ① 対 象:各学科(専門学校を含む)の教育の質の向上・改善に資する取組。
- ② 応募方法:毎年 1～2 月に公募。応募は学科単位とし、一学科からの応募数は制限しない。
- ③ 選定方法:審査は「教育向上・改善プログラム選定委員会」が行い、毎年 3～5 件を 3 月中に選定。
- ④ 実行方法:選定プログラム 1 件あたり 100 万円を限度に予算配付(学長裁量予算)。プログラム実行期間は 1～3 年間。
期間中の予算繰り越し可。予算執行責任者は、学部長、学科長または学校長。
- ⑤ 成果報告:毎年 3 月末に(中間)報告書を提出。報告書は学内イントラで公表。成果報告(発表)会の開催。

教育向上・改善プログラム 申請・選定状況

学部・学科等	2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	申請	選定	申請	選定	申請	選定
薬学部	1	0	0	0	1	0
歯学部	1	1	1	0	2	1
看護福祉学部	看護学科	0	0	0	1	1
		1	0	1	1	1
心理科学部	臨床心理学科	1	1	1	2	1
リハビリテーション科学部	理学療法学科	0	1	0	1	0
	作業療法学科	0	1	0	0	0
	言語聴覚療法学科	0	0	0	0	0
情報センター	—	—	1	1	0	0
大学教育開発センター(再掲)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)
歯科衛生士専門学校	0	0	1	1	0	0
計	5	3	6	4	8	4

9. マルチメディア教育

本学では、学生に質の高い教育を提供するため、ネットワークやマルチメディア機器を活用した教育を推進している。

当別キャンパスに3室(CALL 教室 1, CALL 教室 2, 情報処理教室)の情報処理対応型教室を設置し、情報処理教育及び語学教育の利用に供している。また、主要な講義室にはマルチメディア教育対応設備を整備している。

学内 LAN は、1997 年度及び 2001 年度の文部科学省補助事業として整備し、当別キャンパスにはギガスイッチによる 1Gbps の通信速度を持つ幹線系を、札幌あいの里キャンパスを含む全学には 100Mbps の支線系を敷設している。外部とは、当別キャンパス～SINET 札幌データセンター間を 10Gbps、当別キャンパス～札幌あいの里キャンパス間を 1Gbps の光回線で接続している。

(1) マルチメディア教育の推進

① e-Learning システム

教材、小テスト、アンケート、講習等を Web 上からオンデマンドで利用できるシステムを用意している。また、情報センター教員と学部教員の連携の下、国家試験過去問システムや入学前教育サイト、実務実習前特別演習サイト(薬学部)等、本学独自のシステムを構築している。その他、携帯電話を利用した出欠席管理や小テスト等の実施が可能なシステム等が稼働している。

② マルチメディアコンテンツ配信システム

動画やスライドを統合して Web 上で閲覧することができるシステム(MediaDEPO)を導入し、反転授業のための事前学習や授業後の確認などに活用している。

③ 電子テキスト

教材・資料の電子化を進め、一部科目は Web 上に教材を提示している。

④ パソコン必携

心理科学部では、各学生にノートパソコンを必携させ、授業その他で活用している。

⑤ 学生情報サービス

シラバス、休補講情報、成績情報、出欠席情報、求人情報、各種通知等を Web 上から閲覧できるシステムを整備している。

⑥ 電子メールを利用した学生とのコミュニケーション

電子メールを利用し、学生の質問や相談に応じる等、ネットワーク上でのオフィス・アワーを実施している。

⑦ 遠隔講義システム

Web 会議システム(Live On)を用いて遠隔地にいる受講生と講義室を結ぶことで遠隔地からでも講義に参加できる環境を、当別キャンパスと札幌サテライトキャンパスに整備している。

⑧ 電子黒板

パワーポイントのスライドショー等、パソコンの画面を表示したボード上で書込みやパソコンの操作ができる電子黒板(StarBoard)を当別キャンパスと札幌サテライトキャンパスに整備。遠隔講義システムとの連携も可能なシステムとなっている。

⑨ 学内マルチメディア設備

学内には以下のとおり、パソコン及び情報コンセントを整備しており、学生が自学自習に活用している。

(当別キャンパス)

- 総合図書館
 - ・デスクトップパソコン(情報検索用) 24 台
 - ・ノートパソコン(貸出用) 15 台
 - ・無線 LAN アクセスポイント 5 箇所 (3 階 2 箇所、4 階、5 階、3 階ラウンジ)
- 就職相談室
 - ・デスクトップパソコン 4 台
- CALL 教室 1 (中央講義棟 4 階)
 - ・デスクトップパソコン 60 台 ※授業時間外開放
- CALL 教室 2 (中央講義棟 4 階)
 - ・デスクトップパソコン 78 台
 - ・無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
- 情報処理室 (看護福祉学部棟 3 階)
 - ・タブレットパソコン 78 台 ※授業時間外利用可、教職員立会い要
- 中央講義棟

(2 階)

- ・学生ホール: 情報コンセント 21 箇所 ※カウンターに設置
- ・講義室 C21: 無線 LAN アクセスポイント 2 箇所
- ・講義室 C22: 無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
- ・演習室 C23、C24、C27: 無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所 ※学生ホールでも利用可

(3 階)

- ・学生ホール: 無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
- ・講義室 C31、C32、C33: 情報コンセント各 211 箇所、無線 LAN アクセスポイント各 2 箇所

(4 階)

- ・学生ホール: 無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
- ・講義室 C41、C42: 無線 LAN アクセスポイント各 4 箇所

(5 階)

- ・講義室 C51、C52: 無線 LAN アクセスポイント各 2 箇所
- ・講義室 C53、C54、C55: 無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所

(6 階・7 階)

- ・各実習室: 無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所



(8 階)

- ・演習室C81A, B:無線 LAN アクセスポイント1 箇所 ※共用
- ・演習室C82A, B:無線 LAN アクセスポイント1 箇所 ※共用
- ・視聴覚演習室、聴覚実習室 1、聴覚実習室 2:無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所
- ・演習室C85 前廊下:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

(9 階)

- ・講義室C91A、C91B、C92A、C92B:無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所
- ・講義室C93:無線 LAN アクセスポイント2 箇所
- ・実験室 1、2、3、4、心理演習室:無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所
- ・アセスメント演習室前廊下:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

(10 階)

- ・ビューラウンジ:無線 LAN アクセスポイント2 箇所
- ・演習室C101, C102:無線 LAN アクセスポイント1 箇所 ※共用
- ・演習室C104、C109:無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所

○ 基礎棟・薬学部棟

(1 階)

- ・学生ロビー:無線 LAN アクセスポイント1 箇所、情報コンセント 36 箇所 ※カウンターに設置
- ・P-1 講義室:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・P-2 講義室:情報コンセント 6 箇所、無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・基礎棟食堂:情報コンセント 10 箇所 ※カウンターに設置
- ・大学事務室:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

(2 階)

- ・G-1 講義室:無線 LAN アクセスポイント2 箇所
- ・実習室付近:無線 LAN アクセスポイント4 箇所
- ・教員室付近:無線 LAN アクセスポイント10 箇所
- ・保健センター付近:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・第三会議室:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・役員室付近:無線 LAN アクセスポイント3 箇所

(3 階)

- ・実習室(化学):無線 LAN アクセスポイント4 箇所
- ・薬学教育支援室:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・教員室付近:無線 LAN アクセスポイント14 箇所

(4 階)

- ・実習室(生物・物理)付近:無線 LAN アクセスポイント3 箇所
- ・教員室付近:無線 LAN アクセスポイント8 箇所

(5 階)

- ・教員室付近:無線 LAN アクセスポイント5 箇所

(中央食堂)

- ・1 階:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・2 階:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

○ 歯学部棟

(地下1階)

- ・解剖実習室:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

(1 階)

- ・学生ロビー:情報コンセント 8 箇所 ※カウンターに設置
- ・学生ロビー:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・実習室 183:無線 LAN アクセスポイント2 箇所
- ・演習室前廊下:無線 LAN アクセスポイント2 箇所
- ・第1会議室前廊下:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・中央検査室前廊下:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

(2 階)

- ・実習室付近:無線 LAN アクセスポイント6 箇所
- ・教員室付近:無線 LAN アクセスポイント4 箇所
- ・小児歯科診療室付近:無線 LAN アクセスポイント2 箇所

(3 階)

- ・実習室付近:無線 LAN アクセスポイント3 箇所
- ・教員室付近:無線 LAN アクセスポイント4 箇所
- ・総合診療室:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

(4 階)

- ・講義室 D-1、D-2、D-3、D-4、D-5:無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所
- ・講義室 D-5:情報コンセント 60 箇所
- ・学生控室:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・歯学部教員室付近:無線 LAN アクセスポイント4 箇所
- ・心理科学部教員室付近:無線 LAN アクセスポイント2 箇所

(5 階)

- ・歯学部教員室付近:無線 LAN アクセスポイント4 箇所
- ・リハビリテーション科学部教員室付近:無線 LAN アクセスポイント2 箇所

(6 階)

- ・歯学部教員室付近:無線 LAN アクセスポイント4 箇所
- ・リハビリテーション科学部学習支援センター:無線 LAN アクセスポイント1 箇所
- ・リハビリテーション科学部大学院生室前廊下:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

○ 歯学部 C 棟

(1 階)

- ・講義室 DH-1:無線 LAN アクセスポイント1 箇所

- (2 階)
 - ・基礎実習室:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - ・講義室 DH-2:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - (3 階)
 - ・大研究室:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - (4 階)
 - ・講義室 DH-3:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - (5 階)
 - ・講義室 D-6:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - ・学生控室前廊下:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - 看護福祉学部棟
 - (1 階)
 - ・学生ラウンジ:情報コンセント 24 箇所 ※テーブルに設置
 - ・学生ラウンジ:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - (2 階)
 - ・演習室前廊下:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - ・社会福祉実習室:無線 LAN アクセスポイント 2 箇所
 - (3 階)
 - ・家政調理実習室前廊下、認定看護師講義室前廊下:無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所
 - ・情報処理実習室:無線 LAN アクセスポイント 2 箇所
 - (4 階)
 - ・大学院自習室前廊下、演習室前廊下:無線 LAN アクセスポイント各 1 箇所
 - ・看護福祉学教育支援室:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - 歯科衛生士専門学校
 - (2 階)
 - ・DH-2 講義室:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - その他
 - ・20 周年記念会館廊下(セイコーマート前):無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - ・健康科学研究所:無線 LAN アクセスポイント 4 箇所
 - ・動物実験センター:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - ・体育館・クラブハウス:無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
- (札幌あいの里キャンパス)
- ラウンジ(1 階)情報コンセント 20 箇所、無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - 食堂(1 階)情報コンセント 20 箇所、無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - 実習室 C(2 階)無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - 総合図書館あいの里分館(2 階)情報コンセント 29 箇所、無線 LAN アクセスポイント 1 箇所
 - 共同演習室 2(5 階)情報コンセント 20 箇所、無線 LAN アクセスポイント 1 箇所

(2) 利用科目(情報処理教室利用状況:2018 年度)

実施教室 / 期		利用科目	対象学部・学年	教室稼働率
情報処理教室 (看護福祉学部棟)	前期	医療情報処理演習 生化学・口腔生化学 基礎ゼミナール 情報処理演習 保健医療福祉情報論 卒業研究 情報処理演習	歯学部1年 歯学部2年 看護福祉学部1年 看護福祉学部1年 看護福祉学部3年 看護福祉学部4年 リハビリテーション科学部1年	19.5%
	後期	情報処理演習 情報科学 教育原理 肢体不自由者の心理・生理・病理 肢体不自由教育 教職実践演習(高) 卒業研究 基礎統計学 情報処理演習	薬学部1年 看護福祉学部1年 看護福祉学部1年 看護福祉学部2年 看護福祉学部3年 看護福祉学部4年 看護福祉学部4年 リハビリテーション科学部1年 リハビリテーション科学部1年	12.5%
CALL教室1 (中央講義棟)	前期	オーラル・イングリッシュA 薬学英語 I 医療薬学 II 実習 リハビリテーション科学概論 臨床福祉学導入演習 英語A 日本語の表現 理学療法研究法 基礎統計学	薬学部1年 薬学部3年 薬学部4年 歯学部3年 看護福祉学部1年 看護福祉学部1年 リハビリテーション科学部1年 リハビリテーション科学部3年 リハビリテーション科学部3年	25.0%
	後期	英語A 情報科学 地域連携 早期体験学習 情報科学 英語B 教育の方法と技術 英語A	薬学部1年 薬学部1年 看護福祉学部1年 看護福祉学部1年 看護福祉学部2年 リハビリテーション科学部1年	8.2%
CALL教室2 (中央講義棟)	前期	薬学英語 I 医療福祉活動演習 英語A リハビリテーション科学概論 医療英語基礎 医歯学統合講義 日本語の表現 音響学 理学療法研究法 基礎統計学	薬学部3年 薬学部3年 歯学部1年 歯学部3年 歯学部3年 歯学部5年 リハビリテーション科学部1年 リハビリテーション科学部2年 リハビリテーション科学部3年 リハビリテーション科学部3年	36.6%
	後期	英語A 情報科学 地域連携 早期体験学習 英語B 生化学・口腔生化学 医歯学統合講義 情報科学 英語B 英語A 英語コミュニケーション 情報処理演習	薬学部1年 薬学部1年 薬学部1年 歯学部1年 歯学部2年 歯学部5年 看護福祉学部1年 看護福祉学部1年 リハビリテーション科学部1年 歯科衛生士専門学校1年 歯科衛生士専門学校1年	18.8%

(3) 機器配備状況

教室・講義室名 <台数>	ハード	主要ソフト
情報処理教室 (看護福祉学部棟) <学生用PC:78台>	[学生用PC1(64台)] Microsoft Surface Pro 3 (OS) Windows 8.1 Pro (CPU) Core i5 1.90GHz (メモリ) 4GB (SSD) 128GB [学生用PC2(14台)] Microsoft Surface Pro 4 (OS) Windows 10 Pro (CPU) Core i5 2.40GHz (メモリ) 4GB (SSD) 128GB [プリンタ] Canon LBP-3300(2台), LBP5050N(1台) [AV機器] プロジェクタ, OHC	Microsoft Office 2013 Adobe Acrobat Reader DC Internet Explorer 11 IBM SPSS Statistics 23 ChemBioDraw 15 (運用管理ツール) 瞬快(並)/Ghost Solution SharePoint 2013
CALL教室1 (中央講義棟) <学生用PC 60台>	[学生用PC] Fujitsu FMV-D5290 (OS) Windows 7 Business (CPU) Pentium 4 2.53GHz (メモリ) 2GB (HDD) 160GB [プリンタ] RICOH IPSiO NX86S (4台) [AV機器] プロジェクタ, OHC, BD/VHSプレーヤー	Microsoft Office 2010 Adobe Acrobat Reader DC Internet Explorer 11 (運用管理ツール) 瞬快(並)/Ghost Solution Endpoint Protection 11
CALL教室2 (中央講義棟) <学生用PC 78台>	[学生用PC] Fujitsu FMV-D551 (OS) Windows 8 Pro (CPU) Core i3 3.3GHz (メモリ) 2GB (HDD) 250GB [プリンタ] RICOH IPSiO NX86S (7台) [AV機器] プロジェクタ, OHC, BD/VHSプレーヤー	Microsoft Office 2013 Adobe Acrobat Reader DC Internet Explorer 11 (運用管理ツール) 瞬快(並)/Ghost Solution Endpoint Protection 12
基礎棟: G-1 薬学部棟: P-1, P-2 歯学部棟: D-1~4, D-6 看護福祉学部棟: N-21~27, N-31, N-41~44 心理科学部棟: 全教室(PCを除く)	[PC] HP Pavilion Desktop PC s5750 (OS) Windows 7 Pro (CPU) Core i5 (メモリ) 4GB [AV機器] AV制御卓, プロジェクタ, OHC, ミニDV/DV/VHSプレーヤー	Microsoft Office2010 Adobe Acrobat Reader DC Internet Explorer 11
中央講義棟: C-21~22, C-31~33	[PC] HP Pavilion Desktop PC s5750 ip/ct (OS) Windows7 Pro (CPU) Core i5 (メモリ) 4GB [AV機器] AV制御卓, プロジェクタ, OHC, DVDプレーヤー, VHSプレーヤー	Microsoft Office2010 Adobe Reader X Internet Explorer 9 IBM SPSS Statistics 19
中央講義棟: C-26・27	[PC] FMV-BIBLO R/E70 (OS) Windows 7 Pro (CPU) Core 2 Duo (メモリ) 4GB [AV機器] プロジェクタ	Microsoft Office2010 Adobe Acrobat Reader DC Internet Explorer 11
中央講義棟: C-41~42, C-51~55	[PC] HP Compaq Elite 8300 SF (OS) Windows 7 Pro (CPU) Core i7 3.4GHz (メモリ) 8GB (HDD) 500GB [AV機器] AV制御卓, プロジェクタ, OHC, BDプレーヤー	Microsoft Office2010 PDF Complete Internet Explorer 11
中央講義棟: C-81~82, C-91~93	[PC] HP Elite Desk 800 G1 SF/CT (OS) Windows 7 Pro (CPU) Core i5 3.3GHz (メモリ) 8GB (HDD) 500GB [AV機器] AV制御卓, プロジェクタ, OHC, BDプレーヤー	Microsoft Office2013 Adobe Acrobat Reader DC Internet Explorer 11

10. 大学院

北海道医療大学大学院 教育理念
建学の理念を基本として、大学院の教育理念を以下のように定める。 生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな高度専門職業人の養成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを北海道医療大学大学院の教育理念とする。
北海道医療大学大学院 教育目的
北海道医療大学大学院の教育理念に沿って、高度な専門知識・技術の修得に加え、保健・医療・福祉分野の横断的な知識および豊かな人間性を有した高度専門職業人の養成と最先端の研究活動を通じて、社会の発展、人類の幸福に寄与できる教育・研究者の養成を本大学院の教育目的とする。
北海道医療大学大学院 教育目標
北海道医療大学大学院の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。 1. 豊かな学識と人格の養成 2. 高度な専門知識および学術の修得 3. 独創的な研究および研究能力の開発 4. 社会の要請に的確に対応できる教育・研究の推進

北海道医療大学大学院 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
北海道医療大学大学院では、教育理念・教育目的および教育目標に基づき、各研究科専攻において学位授与要件が定められています。各研究科専攻の定められた学位授与要件を満たし、高度な専門性と研究能力を修得したと認められる者に対して、「修士または博士」の学位を授与します。なお、本学大学院には以下の研究科および専攻を置きます。 薬学研究科: 生命薬科学専攻(修士課程) 薬学専攻(博士課程) 歯学研究科: 歯学専攻(博士課程) 看護福祉学研究科: 看護学専攻(修士課程および博士課程) 臨床福祉学専攻(修士課程および博士課程) 心理科学研究科: 臨床心理学専攻(修士課程および博士課程) リハビリテーション科学研究科: リハビリテーション科学専攻(修士課程および博士課程)
北海道医療大学大学院 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
北海道医療大学大学院研究科の各専攻(課程)では、教育理念・教育目的および教育目標に沿った学位授与の方針に基づく教育課程編成・実施の方針を定めており、「コースワーク」と「リサーチワーク」を適切に組み合わせた教育・研究課程を提供します。
北海道医療大学大学院 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
北海道医療大学大学院では、高度な専門知識・技術の修得と豊かな人間性を有する高度専門職業人の養成と最先端の研究活動を行える研究者・教育者としての人材を養成する研究・教育活動を行います。そのため研究科の各専攻(課程)ではこれらの目的に沿った学位授与の方針を定めており、学位授与の方針の要件をより効果的に達成しうる資質を持った人材について「入学者受入れの方針」として定めています。

北海道医療大学大学院 学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)

北海道医療大学大学院は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に基づいて、大学院の学修成果に関する「アセスメント・ポリシー」を定め、以下の各種評価指標をもとに、学修成果や教育・研究活動の成果の評価や教育課程編成について適切性の検証を行います。

北海道医療大学大学院研究科アセスメント・ポリシーにおける各種評価指標

	入学時	在学時	卒業時
機関レベル (大学院全体)	入学試験 入学時アンケート 調査書等の記載内容 入学率	修得単位数 GPA 学生生活アンケート	学位授与数 就職率・進学率 修了時アンケート 満足度調査
教育課程レベル (研究科・専攻)	入学試験 入学時アンケート 入学率	修得単位数 GPA 学生生活アンケート 休学率・退学率	学位授与数 就職率・進学率 修了時アンケート
授業科目レベル	入学時志望調査書	科目の合格状況 GP 出席率 授業アンケート 学修履歴(ポートフォリオ)	

(1) 薬学研究科(薬学専攻/生命薬科学専攻)

薬学研究科は、学部の薬学教育6年制への制度改正に伴い、薬学の大学院教育を再編し、2010年度から新たに生命薬科学専攻修士課程(2年課程)を開設した。また、6年制学部を基礎とする新しい薬学専攻博士課程(4年課程)を、2012年4月に開設し、2015年度に完成年次を迎えた。新制度のもと、課程博士4名、論文博士5名を輩出している。

① 研究科の方針

大学院薬学研究科 教育理念

《生命薬科学専攻修士課程》

本大学院の教育理念を基本として、生命の尊重と個人の尊厳の保持を旨とし、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、高度な専門性を有する薬科学研究者の養成により、医療社会の発展と人類の幸福に寄与することを薬学研究科生命薬科学専攻(修士課程)の教育理念とする。

《薬学専攻博士課程》

本大学院の教育理念を基本として、生命の尊重と個人の尊厳の保持を旨とし、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育・研究を推進し、社会の要請に対応した研究や独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを薬学研究科薬学専攻(博士課程)の教育理念とする。

大学院薬学研究科 教育目的

《生命薬科学専攻修士課程》

薬学研究科生命薬科学専攻(修士課程)の教育理念に沿って、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、医薬品の専門家としての確かな知識・技術を駆使し、先駆的かつ指導的役割を果たすことが出来る高度な薬科学研究者の養成を本専攻の教育目的とする。

《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻(博士課程)の教育理念に沿って、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育・研究を推進し、研究活動を通して、人間性豊かで確かな倫理観を有する薬学研究者や教育指導者の養成を本専攻の教育目的とする。

生命薬科学専攻 修士課程 教育目標

《生命薬科学専攻修士課程》

薬学研究科生命薬科学専攻(修士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 豊かな学識と人格の養成
2. 高度な専門知識および学術の修得
3. 高度な問題解決能力の涵養

《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻(博士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 豊かな学識と人格の養成
2. 独創的な研究および研究能力の養成
3. 社会の要請に的確に対応できる教育・研究能力の修得

大学院薬学研究科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

《生命薬科学専攻修士課程》

以下の要件を満たし、生命薬科学における高度専門性と研究能力を修得したと認められる者に対して、「修士(生命薬科学)」の学位を授与する。

1. 薬学研究科生命薬科学専攻(修士課程)に2年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。
2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。

《薬学専攻博士課程》

以下の要件を満たし、深い学識と高い研究能力を修得したと認められる、あるいは高度な薬学専門性を必要とする職業において指導的役割を担うための高い学識と能力を修得したと認められる者に対して、「博士(薬学)」の学位を授与する。

1. 薬学研究科薬学専攻(博士課程)に原則4年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。
2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。

大学院薬学研究科 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

《生命薬科学専攻修士課程》

薬学研究科生命薬科学専攻(修士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 志望研究分野に属して研究指導を受け、課題研究を通して問題発見能力および解決能力を身につけさせる。
2. 幅広い視野から生命薬科学を学ぶことができるように配されたカリキュラムを通して、分野横断的に授業科目を履修させる。これにより高度専門職能の基礎となる豊かな学識を身につけさせる。
3. 特論・演習科目の評価はプレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて実施する。修士論文作成に当たり、指導担当教員による形成的評価を継続的に行い、研究態度、課題研究到達度および最終年次における研究発表会、修士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。

《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻(博士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 志望研究分野に属して医療薬学に関連する先端的研究に取り組みながら、研究計画能力と研究実践能力を身につけさせる。
2. 学会発表ならびに論文発表を通して研究競争力と問題処理能力を身につけさせる。
3. 幅広い視野から基盤薬学ならびに応用薬学を学ぶことができるように配された授業科目の履修を通して、所属研究分野の知識のみに偏ることなく分野横断的に医療薬学に拘わる高度専門知識を修得させる。これにより専門職能を発展する基礎となる豊かな学識を身につけさせる。
4. 特論・演習科目の評価はプレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて実施する。博士論文作成に当たり、指導担当教員による形成的評価を継続的に行い、3年次の「中間報告会」、最終年次における研究発表会、口頭試問、学力検査および博士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。

大学院薬学研究科 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

《生命薬科学専攻修士課程》

薬学研究科生命薬科学専攻(修士課程)では、学部において学んだ知識・技能をベースにして更に研鑽を積み、創薬科学あるいは医療科学それぞれの領域における、より高度な専門知識や理論・技術を修得して、地域の保健医療や福祉の増進、向上に携わること強い意欲を持つ学生を求めます。

《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻(博士課程)では、日進月歩の近代医療の中で、人々や他の医療従事者の多様なニーズに応えるために薬剤師として更なる高度専門知識を修得することを目指す学生、さらに医療薬学に関連する学問領域での最先端の研究に従事して自己研鑽を積み、地域医療の中核を担おうとする意欲を持つ学生を求めます。

大学院薬学研究科院生が修得すべき知識及び能力
《生命薬科学専攻修士課程》 生命薬科学における高度の専門性と研究能力
《薬学専攻博士課程》 先進医療の推進に必要な高度な専門知識と研究能力、医療現場において指導的役割を担うための高い臨床能力

② 研究科の概要

本研究科では「保健、医療、福祉」を総合的に理解した上で、薬と人間との相互関係を把握でき、さらには、患者や他の医療職から信頼される「薬のプロフェッショナル」の養成を目的としている。修士課程は薬学教育 6 年制移行に伴い、従来の 2 専攻 16 研究分野(薬学専攻:7 分野・医療薬学専攻:9 分野)を 1 専攻 6 研究分野に統合・再編し、新たに「生命薬科学専攻」を開設した。同専攻では、社会的要請をふまえ、薬学部を含む理系学部卒業者を対象として、高度の専門的知識と先駆的な知見と技術に裏付けられた優れた問題処理能力、研究能力を有し創薬科学あるいは医療科学を推進できる研究者・高度専門技術者の養成を目的としている。6 年制薬学部を基礎とする新しい薬学専攻博士課程では、従来の 3 学系 8 分野を 2 学系に統合し、薬学を基盤とした医療薬学の最先端の研究を通して、先端医療の推進に必要な高度な専門知識と研究能力を身に付け、広い視野に立って総合的観点から研究・開発に取り組むとともに、医療現場において指導的役割を担う人材の養成を図るための教育課程を編成した。

③ 修業年限・定員

- 生命薬科学専攻
 - 修士課程:2年 収容定員: 6名(入学定員3名)
- 薬学専攻
 - 博士課程:4年 収容定員:12 名(入学定員3名)

④ 研究分野

修士課程・生命薬科学専攻
【 研究分野 6 】 創薬化学・生命物理科学・分子生命科学・衛生薬学・薬理学・薬剤学

博士課程・薬学専攻[4 年課程]
【 2学系 】
基盤薬学系
臨床薬学系

⑤ カリキュラム編成

生 命 薬 科 学 専 攻			
修 士 課 程			
授 業 科 目	講 義 その他の 区分	授業を 行 う 年 次	単位数
【 専 門 コ ア 科 目 】			
創薬化学特論Ⅰ	講 義	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
同セミナーⅠ	演 習	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
生命物理科学特論Ⅰ	講 義	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
同セミナーⅠ	演 習	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
分子生命科学特論Ⅰ	講 義	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
同セミナーⅠ	演 習	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
衛生薬学特論Ⅰ	講 義	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
同セミナーⅠ	演 習	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
薬理学特論Ⅰ	講 義	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
同セミナーⅠ	演 習	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
薬剤学特論Ⅰ	講 義	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
同セミナーⅠ	演 習	1・2	2
同Ⅱ	〃	1・2	2
【 課 題 研 究 】			
課題研究	実 験	1～2	18
【 生 命 薬 科 学 科 目 】			
生命薬科学特論Ⅰ(生体機能解析)	講 義	1・2	1
生命薬科学特論Ⅱ(遺伝子機能解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論Ⅲ(病態解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論Ⅳ(タンパク機能解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論Ⅴ(薬物標的分子解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論Ⅵ(食品機能解析)	〃	1・2	1
生命薬科学特論Ⅶ(ゲノム薬理学)	〃	1・2	1
【 が ん 専 門 科 目 】			
がん特論Ⅰ(がん病態学総論)	講 義	1・2	1
がん特論Ⅱ(がん病態学各論)	〃	1・2	1
がん特論Ⅲ(がん化学療法)	〃	1・2	1
がん特論Ⅳ(抗がん剤動態解析)	〃	1・2	1
修了要件			
必修科目26単位（所属する研究分野の専門コア科目8単位と課題研究18単位）及び選択科目4単位（他の研究分野の専門コア科目または生命薬科学各科目）の合計30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 上記のほか、がん専門コースを選択する場合は、がん専門科目を必修とする			

薬 学 専 攻			
博 士 課 程			
授 業 科 目	講 義 その他の 区分	授業を 行 う 年 次	単位数
【 医 療 薬 学 基 盤 科 目 】			
医薬品開発特論Ⅰ	講 義	1・2	2
医薬品開発特論Ⅱ	〃	1・2	2
臨床薬理学特論	〃	1・2	2
生体機能解析学特論	〃	1・2	2
食品機能解析学特論	〃	1・2	2
予防医療学特論	〃	1・2	2
ゲノム解析学特論	〃	1・2	2
感染症学特論	〃	1・2	2
薬動学特論	〃	1・2	2
薬物分析化学特論	〃	1・2	2
医薬品作用学特論	〃	1・2	2
臨床薬物動態学特論	〃	1・2	2
薬剤疫学特論	〃	1・2	2
漢方薬学特論	〃	1・2	2
【 医 療 薬 学 応 用 科 目 】			
画像診断学特論	講 義	3・4	2
臨床診断学特論	〃	3・4	2
病態解析学特論	〃	3・4	2
地域医療実践学特論	〃	3・4	2
環境感染学特論	〃	3・4	2
レギュラトリーサイエンス特論	〃	3・5	3
医薬品情報演習	演 習	3・4	1
E B M実践演習	〃	3・4	1
T D M実践演習	〃	3・4	1
薬物相互作用解析演習	〃	3・4	1
臨床薬学総合実習	実 習	2～4	4
【 基 盤 研 究 科 目 】			
実験計画演習	演 習	1	2
情報処理演習	〃	1	2
基盤研究総合実習	〃	1	2
【 課 題 研 究 】			
課題研究	実 験	1～4	10
【 専 門 薬 剤 師 科 目 】			
専門薬剤師特別講義	講 義	1～4	2
修了要件			
必修科目14単位（基盤研究科目4単位、課題研究10単位）及び選択科目16単位以上（医療薬学基盤科目10単位以上、医療薬学応用科目6単位以上）の合計30単位以上			

(2) 歯学研究科

① 研究科の方針

大学院歯学研究科 歯学専攻 博士課程 教育理念
本大学院の教育理念を基本として、高度化する学術研究の発展に貢献し得る独創的な研究能力、高度な学識、豊かな人間性を備えた人材を養成し、歯科医学の先駆的な学術研究の推進を通じて人類の幸福に貢献することを歯学研究科歯学専攻(博士課程)の教育理念とする。
大学院歯学研究科 歯学専攻 博士課程 教育目的
歯学研究科歯学専攻(博士課程)の教育理念に沿って、高度な研究能力、歯科医療技術、深い学識、豊かな人間性を備えた歯学研究者あるいは専門医の養成を本専攻の教育目的とする。
大学院歯学研究科 歯学専攻 博士課程 教育目標
歯学研究科歯学専攻(博士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。 1. 深い学識と人格の養成 2. 高度な専門知識と技術の修得 3. 独創的で高度な研究能力の修得 4. さまざまな社会ニーズに対応できる資質・能力の修得
大学院歯学研究科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
以下の要件を満たし、歯科医学の分野で、保健・医療・福祉の連携統合を担う研究者あるいは専門医として深い学識と高い研究能力を修得したと認められる者に対して、「博士(歯学)」の学位を授与する。 1. 歯学研究科歯学専攻(博士課程)に原則4年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。 2. 大学院3年次に、研究中間発表会で発表している。 3. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。
大学院歯学研究科 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
歯学研究科歯学専攻(博士課程)では、「研究コース」と「認定医・専門医養成コース」の2つのコースを設けて、学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。 1. 「研究コース」では、歯科医学研究を背景とした基盤的・先端的な専門知識および技能を修得させ、それらを統合する能力を備えた指導的な人材ならびに国際的に活躍できる自立した研究者を養成する。また、自己の研究に強い責任感と高い倫理性を持ち、その研究成果と意義を高度な水準で議論し、必要に応じて他の研究分野との協力体制を構築できる能力を育てる。そのための教育課程編成にあたっては、過度の専門化に陥ることなく、幅広い視野から自己の研究に係わる知識を集積できるよう学際的なカリキュラムを編成・導入し、既存概念に囚われることなく未踏の分野に挑戦する創造的な研究を実践させる。 2. 「認定医・専門医養成コース」では、人々の多様かつ高度に専門的な医療サービスに対するニーズに応え、日々高度化する歯科医療技術を科学的エビデンスに基づいて評価し、それらを地域医療に応用できる研究マインドを持った臨床歯科医を養成する。そのための本コースでは高度な歯科医療技術を修得させるばかりでなく、様々な歯科医療技術を多様な観点から評価し、それらの新規あるいは継続的導入が地域歯科医療の発展に貢献するか否かを絶えず客観的に検証できる能力を養成する。 3. 歯科医学研究総論では、毎回の講義で実施する小テストあるいはレポート課題によって理解度を評価する。それ以外の特論・実習科目の評価は、プレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて総合的に評価する。課題研究については、大学院2年目に研究構想検討会を実施して研究計画を公表し、指導担当教員以外に2名のアドバイザーを選出する。これらの教員が参加する研究成果計画検討会、3年目に実施する中間発表会、および最終年次における研究発表会を実施し、継続的に形成的評価を行い、研究態度、到達度を評価する。さらに提出された博士論文を主査・副査と学位論文提出者による討議会、および博士論文審査基準に基づいて総合的に評価する。
大学院歯学研究科 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
歯学研究科歯学専攻(博士課程)では、基礎学力に加え、医療人としての高い倫理性を備え、自ら設定した目標達成のため粘り強く努力する意欲に富み、歯科医学の分野で保健・医療・福祉の連携統合を担う研究者あるいは専門医として人類の幸福に貢献するという強い意欲のある人材を求めます。
大学院歯学研究科 院生が修得すべき知識及び能力
1. 歯科医学研究を背景とした基盤的・先端的な専門知識および技能 2. 高度化する歯科医療技術を科学的エビデンスに基づいて評価し、それらに応用できる研究マインドを持つ能力 3. 自己の研究に強い責任感と高い倫理性とを持つ的確に位置づけ、その研究成果と意義を高度な水準で議論し、必要に応じて他の研究分野との協力体制を構築できる能力

② 研究科の概要

今日、我が国の医学・医療は、患者一人一人の人権や意志を尊重した、国民に開かれた医療の実現、少子高齢化、高度情報化社会への適切な対応、世界をリードする先端的な医学・医療の研究開発の推進、地球的規模での医学・医療協力への貢献等、様々な重要課題に直面している。こうした諸問題に対し、歯科医学の教育・研究は将来における国民の多様かつ高度な医療サービスに対するニーズに応える人材や、将来の歯科医学・歯科医療の進展に寄与する人材を育成することが求められ、その研究領域は、高度化・多様化している。また、歯科医療技術の進歩に伴い、高度な専門性を有する歯科医師のニーズが社会的に高まっており、各歯科関連学会においては国民への良質な歯科医療の提供のために認定医・専門医の養成が精力的に取り組まれている。

本学の大学院教育では、こうした時代に対応するため、2008年4月から研究者又は教育者を養成する「研究コース」と、研究マインドを持った専門医を養成する「認定医・専門医養成コース」を創設し、学部教育に続き高度な教育と研究を推進し、保健・医療・福祉の連携・統合を担う実践的な人材の養成を含めた大学院をめざし、新しいカリキュラムによる教育を行っている。また、国際化の進展に伴う外国人留学生の増加に鑑み、学内看板の英文化とともに英文ホームページを整備(2015年度)し、シラバスをHP上にて英文化(2016年度)した。

【デュアルディグリー・プログラム】

グローバル化への取組の一環として、大学間提携校である台北医学大学の大学院(口腔医学院)と「デュアルディグリー・プログラム」の運用を開始した(2015.3.7調印)。同制度は、2つの大学間で単位の一部に互換性を持たせ、両者が認める試験に合格し、提出された論文が両者から学位論文と認定された場合に、両者から博士(Ph.D.)の学位が与えられるもので、海外の大学との同制度運用は国内私立歯科大学では初の取組であり、2017年度末にプログラム修了者に対して初の学位授与を行った。

本制度の教育課程を専攻する大学院生は、本学の修了要件に加え、台北医学大学の修了要件を満たす必要があり、異文化圏での研究生活を体験することにより、デュアルディグリー取得者は高い英語力と国際感覚を身につけ、高度な専門的知識、質の高い研究を遂行する能力に磨きをかけた優れた人材として歯科医学分野で国際的に活躍することが期待される。

1. 本学大学院歯学研究科に在籍する大学院生を対象とする。
2. 大学院修了時までに、台北医学大学口腔医学院に合計16か月以上滞在する。
3. 大学院修了時までに国際誌に論文が2編以上(内1編以上は筆頭著者)掲載、又は受理されている必要がある。
4. 学位論文は英語で執筆し、最終発表時も英語で行う。

③ 修業年限・定員

博士課程4年 歯学専攻 収容定員72名(入学定員18名)

④ カリキュラムの特色

【研究コース】

専門の研究課題に即した自発的な研究に従事させ、研究者として自立した研究活動を行うのに必要な高度な能力を会得させるために4年間の修業年限内に専攻に関わる科目から12単位、他の専攻に関わる科目、共通科目、特論科目のうちから18単位以上修得することを義務付けている。

【認定医・専門医養成コース】

各専門領域における認定専門資格に必要な専門的知識と臨床能力を会得させるために、4年間の修業年限内に必修科目4単位、専攻に関わる科目から14単位以上及び共通科目、特論科目のうちから12単位以上修得することを義務付けている。

【研究コース／認定医・専門医養成コース】

特色ある講義内容として、研究の進め方、論文の構成、データ処理法等を全開設分野から学ぶ「歯科医学研究総論」や、研究方法の基礎及び研究機器の利用法を学ぶ「研究方法論Ⅰ・Ⅱ」等を共通科目として開講している。また、選択科目として32項目の特論科目を設けており、院生が主体的に科目を履修できるようにするとともに、薬学研究科、看護福祉学研究科で開講している科目を研究科間共通科目として取り入れ、保健と医療と福祉の連携・統合を図ることとしている。さらに、学習意欲を持ちながら昼間に修業することが困難な社会人が働きながら学ぶことを可能とするため、夜間その他の特定の時間・時期において授業又は研究指導を行うなど、履修形態を弾力化し、留学生に対しては自由選択科目として「日本語コミュニケーション」を配当し、日本語の修得を支援するなど、単位修得等への便宜を図っている。研究指導においては、研究をまとめる能力を養うために、第3学年次において成果の中間報告を行う発表会を実施しており、発表会での多くの研究者からの批評は、院生の研究内容を更に高めるのに大いに役立っている。

⑤ カリキュラム編成

【研究コース】

＜専攻＞ 授業科目	区分	単位数	履修
＜解剖学＞			
解剖学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔解剖学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜組織学＞			
組織学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔組織学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜生理学＞			
人体生理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔生理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜生化学＞			
生化学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔生化学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜臨床口腔病理学＞			
病理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔病理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜微生物学＞			
微生物学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔微生物学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜薬理学＞			
薬理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科薬理学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜生体材料工学＞			
生体材料工学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科生体材料工学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜保健衛生学＞			
保健衛生学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔保健衛生学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜歯周歯内治療学＞			
歯周病学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
歯内療法学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜う蝕制御治療学＞			
う蝕制御治療学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
う蝕制御治療学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	

＜専攻＞ 授業科目	区分	単位数	履修
＜咬合再建補綴学＞			
全部床義歯補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
部分床義歯補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜クラウンブリッジ・インプラント補綴学＞			
歯冠補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
橋義歯補綴学特論	講義	2	
同実習	実習	4	
＜組織再建口腔外科学＞			
口腔外科学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔外科学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜顎顔面口腔外科学＞			
口腔外科学特論Ⅲ	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔外科学特論Ⅳ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜口腔再生医学＞			
口腔再生医学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
口腔再生医学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜高齢者・有病者歯科学＞			
高齢者・有病者歯科学Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
高齢者・有病者歯科学Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜歯科矯正学＞			
歯科矯正学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科矯正学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜小児歯科学＞			
小児歯科学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
小児歯科学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜歯科放射線学＞			
歯科放射線学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科放射線学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜歯科麻酔学＞			
歯科麻酔学特論Ⅰ	講義	2	
同実習	実習	4	
歯科麻酔学特論Ⅱ	講義	2	
同実習	実習	4	
＜自由選択科目＞			
日本語コミュニケーション	講義	(2)	

＜専攻＞ 授業科目	区分	単位数	履修
【研究コース／認定医・専門医養成コース】			
（共通科目）			
歯科医学課題研究	講義	4	
歯科医学特別演習	講義	4	
歯科総合治療Ⅰ	講義	2	
歯科総合治療Ⅱ	講義	2	
歯科医学研究総論	講義	2	
研究方法論Ⅰ	講義	1	
研究方法論Ⅱ	講義	1	
（特論科目）			
歯科医学特論Ⅰ	講義	1	
歯科医学特論Ⅱ	講義	1	
歯科医学特論Ⅲ	講義	1	
歯科医学特論Ⅳ	講義	1	
歯科医学特論Ⅴ	講義	1	
歯科医学特論Ⅵ	講義	1	
歯科医学特論Ⅶ	講義	1	
歯科医学特論Ⅷ	講義	1	
病態生理学特論	講義	1	
細胞生物学特論	講義	1	
分子生命科学特論	講義	1	
内科学特論	講義	1	
内科系疾病学特論	講義	1	
外科系疾病学特論	講義	1	
医薬品情報科学特論	講義	1	
遺伝医学・医療特論	講義	1	
生殖医療化学特論	講義	1	
感染症学特論	講義	1	
腫瘍学特論	講義	1	
臨床腫瘍・感染症学特論	講義	1	
臨床小児医学・臨床遺伝学特論	講義	1	
心身医学特論	講義	2	
臨床心理学特論	講義	1	
非言語行動学特論	講義	2	
ヘルスケア特論	講義	1	
医療社会学特論	講義	1	
在宅ケア特論Ⅰ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅱ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅲ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅳ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅴ	講義	1	
在宅ケア特論Ⅵ	講義	1	
1く)は専攻科目等を示す。 2 各専攻に関わる授業科目から12単位、他の専攻に関わる授業科目、共通科目、特論科目のうちから18単位以上、計30単位以上を履修するものとする。			
【認定医・専門医養成コース】			
＜口腔外科＞			
口腔外科学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜歯周病＞			
歯周病学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜小児歯科＞			
小児歯科学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜歯科麻酔＞			
歯科麻酔学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	

＜専攻＞ 授業科目	区分	単位数	履修
＜保存治療＞			
保存治療学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜接着歯科治療＞			
接着歯科治療学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜レーザー歯学＞			
レーザー歯学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜補綴歯科＞			
補綴歯科学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜口腔インプラント＞			
口腔インプラント学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜歯科審美＞			
歯科審美学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜矯正歯科＞			
矯正歯科学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜顎関節＞			
顎関節症学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜口腔衛生＞			
口腔衛生学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜障害者歯科＞			
障害者歯科学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜歯科放射線＞			
歯科放射線学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜老年歯科＞			
老年歯科学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜口腔病理＞			
口腔病理学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
＜歯科心身医学＞			
歯科心身医学特論	セミナー	2	
同実習	実 習	2	
同臨床実習	臨 床	10	
（必修科目）			
歯科医学研究総論＊	講 義	2	
EBM総論＊	講 義	2	

1く)は認定医・専門医を示す。

2 ＊は1年次の必修科目

3 必修科目4単位、各専攻認定医・専門医に関わる授業科目14単位以上および研究コースの共通科目、特論科目のうちから12単位以上、計30単位以上を履修するものとする。

(3)看護福祉学研究科(看護学専攻/臨床福祉学専攻)

看護福祉学研究科は、教育理念にもある通り、高度専門職業人の養成をめざしている。具体的には、保健・医療・福祉に関する高い専門知識と技術に裏付けされたトータルな視点をもって全人的なケアに当たることができる人材の養成である。そのためにカリキュラム編成は看護学、臨床福祉学の両分野において、臨床や地域での必要に応えられる確かな実践力と研究力を養うための科目群を共通科目として設けている。また、選択科目群を多く導入し、トータルな視野に立ったうえで各分野の固有性を追求しているほか、教育と研究の統合も積極的に推進している。

看護学専攻高度実践コース(NP養成課程)では、2015年、特定行為研修の指定研修機関としての指定を受け、21区分38特定行為のうち、13区分23特定行為について研修を開始している。2019年3月現在で、24名の修了生を輩出した。また、2017年度「職業実践力育成プログラムに認定されており、社会人等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして機能している。

① 研究科の方針

【看護学専攻 博士前期(修士)課程】

教育理念

本大学院の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、看護の高度専門職業人を養成することにより、社会の発展ならびに人々の健康の向上に貢献することを看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)の教育理念とする。

教育目的

看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、高度専門職業人として看護領域の実践に寄与する人材、ならびに研究者としての基礎的能力を備えた人材の養成を本専攻の教育目的とする。

教育目標

看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 深い学識および豊かな人間性の涵養
2. 看護における高度な専門知識および学術の修得
3. 看護の質向上に寄与する自律的・創造的実践力の養成
4. 社会の要請に対応できる教育・研究の推進

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

以下の要件を満たし、看護学における高度な専門性と研究能力を修得したと認められる者に対して、「修士(看護学)」の学位を授与する。

1. 看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)に2年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。
2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。

教育課程・実施の方針(カリキュラムポリシー)

看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 教育・研究コース、高度実践コースの目的に対応し、専門領域の基礎となるコア科目として、実践力ならびに研究力を養成するため、特論・演習・実習および課題研究を系統的に配当する。
2. 高度専門職業人の養成にむけ、判断力、役割遂行力を培う選択科目を配当する。
3. 看護学と臨床福祉学に共通する研究法、およびコミュニティにおける看護と福祉の統合に関する科目を共通科目として配当する。
4. 上記各コースの科目(特論・演習・実習)については、レポート・プレゼンテーション・討論の参加状況やルーブリック等を用いて評価する。修士論文の作成においては、指導担当教員による形成的評価を継続的に行い、1年次の「中間報告会」、最終年次における論文発表会および修士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)では、地域社会の発展ならびに人々の健康の向上に貢献できる高度専門職業人の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 看護学における高度な専門知識および学術を修得し、自律的・創造的に活動する強い意欲がある人
2. 社会の要請に対応する研究を推進し、地域社会や人々の健康向上に向けて深い探求心のある人

【看護学専攻 博士課程】

教育理念

本大学院の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、自立した研究者として看護学の固有性を追求し、開拓的な研究活動ができる人材を養成することにより、社会の発展ならびに人々の健康の向上に貢献することを看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)の教育理念とする。

教育目的

看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)の教育理念に沿って、高度な学識および独創的な研究力を有し、保健・医療・福祉分野において高度な実践を提供し指導的役割を担うことができる人材の養成を本専攻の教育目的とする。

教育目標

看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 深い学識および豊かな人間性の涵養
2. 看護における高度な専門知識および学術の修得
3. 看護における開拓的な研究の推進
4. 保健・医療・福祉の分野において社会の要請に対応できる研究開発の推進

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

以下の要件を満たし、深い学識と高度な実践力、指導的役割の発揮力を修得したと認められる者に対して、「博士(看護学)」の学位を授与する。

1. 看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)に3年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。
2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。

教育課程・実施の方針(カリキュラムポリシー)

看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 専門領域における実践力ならびに研究力を養成するために、特論・演習・特別研究を系統的に配当する。
2. 高度実践または指導的役割遂行に必要な知識・技術を養成するため、選択科目を配当する。
3. 看護学と臨床福祉学に共通した理論や開拓的研究を追究する科目として共通科目を配当する。

4. 特論・演習科目については、プレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて評価する。博士論文作成においては、指導担当教員による形成的評価を継続的に行い、最終年次における「中間研究報告会」、論文発表会、口頭試問、学力検査および博士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。
入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)では、高度な学識および独創的な研究力を有し、保健・医療・福祉分野において高度な実践を提供し指導的役割を担うことができる人材の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。 1. 看護学における高度な専門知識および学術を修得し、実践あるいは教育分野において自律的・創造的に活動する意欲がある人 2. 自立した研究者として、看護学の固有性や開拓的研究に向けて深い探求心のある人
看護福祉学研究科院生が修得すべき知識及び能力
修士課程では、高度専門職業人として実践に寄与できる優れた知識・技術と研究者としての基礎的能力を培い、博士課程では、自立した教育者ならびに知的技術者として活躍できる能力と学識を備えていること。

【臨床福祉学専攻 博士前期(修士)課程】

教育理念
本大学院の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、福祉の高度専門職業人を養成することにより、社会の発展ならびに人々の福祉の向上に貢献することを看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(修士課程)の教育理念とする。
教育目的
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(修士課程)の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、高度専門職業人として福祉領域の実践に寄与する人材、ならびに研究者としての基礎的能力を備えた人材の養成を本専攻の教育目的とする。
教育目標
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(修士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。 1. 深い学識および豊かな人間性の涵養 2. 福祉における高度な専門知識および学術の修得 3. 福祉の質向上に寄与する自律的・創造的実践力の養成 4. 社会の要請に対応できる教育・研究の推進
学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
以下の要件を満たし、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得したと認められる者に対して、「修士(臨床福祉学)」の学位を授与する。 1. 看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(修士課程)に2年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。 2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。
教育課程・実施の方針(カリキュラムポリシー)
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(修士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。 1. 専門領域の実践力ならびに研究力を養成するため、コア科目として、特論・演習・実習および課題研究を系統的に配当する。 2. 高度専門職業人の養成にむけ、判断力、役割遂行力を培う選択科目を配当する。 3. 看護学と臨床福祉学に共通する研究法、およびコミュニティにおける看護と福祉の統合に関する科目を共通科目として配当する。 4. 上記各コースの科目(特論・演習・実習)については、レポート・プレゼンテーション・討論の参加状況やルーブリック等を用いて評価する。修士論文作成においては、指導担当教員による形成的評価を継続的に行い、1年次の「中間報告会」、最終年次における論文発表会および修士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。
入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(修士課程)では、地域社会の発展ならびに人々の福祉の向上に貢献できる高度専門職業人の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。 1. 福祉学における高度な専門知識および学術を修得し、自律的・創造的に活動する強い意欲がある人 2. 社会の要請に対応する研究を推進し、地域社会や人々の健康向上に向けて深い探求心のある人

【臨床福祉学専攻 博士課程】

教育理念
本大学院の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、自立した研究者として臨床福祉学の固有性を追求し、開拓的な研究活動ができる人材を養成することにより、社会の発展ならびに人々の福祉の向上に貢献することを看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(博士課程)の教育理念とする。
教育目的
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(博士課程)の教育理念に沿って、高度な学識および独創的な研究力を有し、保健・医療・福祉分野において高度な実践を提供し指導的役割を担うことができる人材の養成を本専攻の教育目的とする。
教育目標
看護福祉学研究科臨床福祉学本専攻(博士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。 1. 深い学識および豊かな人間性の涵養 2. 福祉における高度な専門知識および学術の修得 3. 福祉における開拓的な研究の推進 4. 保健・医療・福祉分野において社会の要請に対応できる研究開発の推進
学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
以下の要件を満たし、深い学識と高度な実践力、指導的役割の発揮力を修得したと認められる者に対して、「博士(臨床福祉学)」の学位を授与する。 1. 看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(博士課程)に3年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。 2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。
教育課程・実施の方針(カリキュラムポリシー)
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(博士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 専門領域における実践力ならびに研究力を養成するために、特論・演習・特別研究を系統的に配当する。 2. 高度実践または指導的役割遂行に必要な知識・技術を養成するため、選択科目を配当する。 3. 看護学と臨床福祉学に共通した理論や開拓的研究を追究する科目として共通科目を配当する。 4. 特論・演習科目については、プレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて評価する。博士論文作成においては、指導担当教員による形成的評価を継続的にを行い、最終年次における「中間研究報告会」、論文発表会、口頭試問、学力検査および博士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。
入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
看護福祉学研究科臨床福祉学専攻(博士課程)では、地域社会の発展ならびに人々の健康水準の向上に貢献できる高度専門職業人の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。 1. 臨床福祉学における高度な専門知識および学術を修得し、実践あるいは教育分野において自律的・創造的に活動する意欲がある人 2. 自立した研究者として、臨床福祉学の固有性や開拓的研究に向けて深い探求心のある人
看護福祉学研究科院生が修得すべき知識及び能力
修士課程では、高度専門職業人として実践に寄与できる優れた知識・技術と研究者としての基礎的能力を培い、博士課程では、自立した教育者ならびに知的技術者として活躍できる能力と学識を備えていること。

② 研究科の概要

本研究科は、看護・福祉領域に関して高度な教育・研究を進め、ケアの実行者としての能力修得に加え、健全な保健医療福祉サービスシステムの維持と改革に必要な実践的な問題発見・解決能力と現実的な問題に対応して研究開発能力を発揮できる人材づくりをめざしている。さらに、博士後期課程では、修士課程における教育・研究の精深さを追究し、少子・高齢社会の看護、臨床福祉学分野の教育・研究者、実践指導者となりうる知的技術者の養成をめざしている。

2015年度、看護学専攻NP養成コースは、厚生労働省の施行による特定行為研修の指定研修機関として申請を行っており、特定行為研修に必要な科目の追加、既存科目の見直し等を行い、CNS教育とともに高度実践コースの中に位置づけた。

③ 修業年限・定員

修士課程(前期2年の課程) 看護学専攻:収容定員30名(入学定員15名) ／ 臨床福祉学専攻:収容定員10名(入学定員5名)
博士課程(後期3年の課程) 看護学専攻:収容定員6名(入学定員2名) ／ 臨床福祉学専攻:収容定員6名(入学定員2名)

④ カリキュラムの特色

[博士前期(修士)課程]

臨床現場で高度な能力を発揮できる専門職業人の育成を主軸として、次の3点を骨子にカリキュラムを構築している。看護学と臨床福祉学の接地面を拡大し、研究と実践を両立する新しい高度専門職業人の育成を図っている。

- ・ 高度専門職業人の育成をより一層明確に打ち出す。
- ・ 社会人の修士課程への取り込みを強化する。
- ・ 看護学と臨床福祉学の接点を強固なものにする。

また、研究科の大きな特色として、以下3点があげられる。

・高度実践コース(CNS)

「専門看護師(CNS＝Certified Nurse Specialist)」とは、日本看護系大学協議会によって認定された専門看護師教育課程において所定の単位を取得し、日本看護協会が年1回行う認定審査に合格した看護師をいう。

実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の6つの役割を果たし、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して、水準の高い看護ケアを効率よく提供するための知識・技術を身につけた看護師として、保健医療福祉の発展に貢献している。

本学では、特定の専門看護分野として定められた14分野(日本看護協会による専門看護師名称としては13分野)のうち、老年看護・精神看護・慢性看護・がん看護・感染看護・在宅看護の6分野が公式な教育課程として認定されており、1999年の老年看護分野開設以来、多くの専門看護師を輩出してきた。臨床現場において、卓越した指導力を発揮する役割を担い、優れた看護ケアを提供している。

・高度実践コース(NP)

NP=Nurse Practitionerとは、看護系大学院で専門的な教育を受け、比較的安定した状態にある患者に対して医師と協働して作成したプロトコル内で診断・治療が提供できる看護職をいう。

2015年度、厚生労働省の特定行為研修の施行開始にあわせ、特定行為研修に必要な科目をコース内に追加した。

・臨床福祉の専門家育成

臨床福祉学専攻では、各領域におけるリーダーとスーパーバイザーの養成、先駆的な社会福祉実践者の養成をめざしている。様々な課題に対処するための相談能力のほか、関連する諸領域との連携・調整能力等、幅広く臨床現場でリーダーシップを発揮できる人材育成のためのカリキュラムを編成している。

[博士後期課程]

看護学・臨床福祉学の両専攻とも、博士前期課程と同様の領域でカリキュラムを編成しているが、より専門的な研究を深めることができるよう科目配置を配慮し、社会人の受入れや、より実践的な専門職をめざすことも可能としている。

⑤カリキュラム編成

博士前期(修士)課程看護学専攻

授業科目の名称		配当 年次	単位数	
			必修	選択
「コア科目」	【基礎・統合領域】			
	〔看護学特論Ⅰ〕			
	基礎看護学特論Ⅰ	1		2
	看護管理学特論Ⅰ	1		2
	地域看護学特論Ⅰ	1		2
	在宅看護学特論Ⅰ	1		2
	感染看護学特論Ⅰ	1		2
	高度実践看護学特論Ⅰ	1		2
	〔看護学特論Ⅱ〕			
	在宅看護学特論Ⅱ	1		2
	高度実践看護学特論Ⅱ	1		2
	〔看護学演習Ⅰ〕			
	基礎看護学演習Ⅰ	1		2
	看護管理学演習Ⅰ	1		2
	地域看護学演習Ⅰ	1		2
	在宅看護学演習Ⅰ	1		2
	感染看護学演習Ⅰ	1		2
	高度実践看護学演習Ⅰ	1		2
	〔看護学演習Ⅱ〕			
	基礎看護学演習Ⅱ	1・2		2
	看護管理学演習Ⅱ	1・2		2
	地域看護学演習Ⅱ	1・2		2
	在宅看護学演習Ⅱ	1・2		2
	感染看護学演習Ⅱ	1・2		2
	高度実践看護学演習Ⅱ	1・2		2
	〔看護学演習Ⅲ〕			
	在宅看護学演習Ⅲ	2		2
	高度実践看護学演習Ⅲ	2		2
	【発達・障害領域】			
	〔看護学特論Ⅰ〕			
	小児看護学特論Ⅰ	1		2
	母性看護学特論Ⅰ	1		2
	成人看護学特論Ⅰ	1		2
	老年看護学特論Ⅰ	1		2
	精神看護学特論Ⅰ	1		2
	がん看護学特論Ⅰ	1		2
	〔看護学特論Ⅱ〕			
	成人看護学特論Ⅱ	1		2
	老年看護学特論Ⅱ	1		2
	精神看護学特論Ⅱ	1		2
	〔看護学演習Ⅰ〕			
	小児看護学演習Ⅰ	1		2
	母性看護学演習Ⅰ	1		2
	成人看護学演習Ⅰ	1		2
	老年看護学演習Ⅰ	1		2
	精神看護学演習Ⅰ	1		2
	がん看護学演習Ⅰ	1		2
	〔看護学演習Ⅱ〕			
	小児看護学演習Ⅱ	1・2		2
	母性看護学演習Ⅱ	1・2		2
	成人看護学演習Ⅱ	1・2		2
	老年看護学演習Ⅱ	1・2		2
	精神看護学演習Ⅱ	1・2		2
	がん看護学演習Ⅱ	1・2		2
	〔看護学演習Ⅲ〕			
	成人看護学演習Ⅲ	2		2
	老年看護学演習Ⅲ	2		2
	精神看護学演習Ⅲ	2		2
	〔臨地実習〕		2	
	臨地実習Ⅰ	1		4
	臨地実習Ⅱ	2		4
	臨地実習Ⅲ	2		4
	臨地実習Ⅳ	2		6
	〔課題研究〕			
	看護学課題研究	2		6
	臨床看護学課題研究	2		2

授業科目の名称		配当 年次	単位数	
			必修	選択
「選択科目」	看護管理特論	1・2		2
	看護理論特論	1・2		2
	看護倫理特論	1・2		2
	コンサルテーション論	1・2		2
	在宅ケアマネジメント論	1・2		1
	在宅看護管理論	1・2		2
	感染症学特論	1・2		2
	感染予防学特論	1・2		2
	感染制御薬理学特論	1・2		2
	精神障害者治療支援技法論	1・2		2
	腫瘍学特論	1・2		2
	病態治療論	1・2		2
	在宅医療薬理学論	1・2		1
	保健医療福祉論	1・2		2
	家族ケア論	1・2		2
	臨床解剖生理学論（高度実践）	1・2		2
	病態生理学論（高度実践）	1・2		2
	薬理学特論（高度実践）	1・2		2
	疾病予防・管理論（高度実践）	1・2		2
	ヘルスアセスメント特論Ⅰ（高度実践）	1・2		2
	ヘルスアセスメント特論Ⅱ（高度実践）	1・2		2
	看護教育特論	1・2		2
	看護学教育基礎論	1・2		2
	看護学教育基礎演習	1・2		4

〔看護福祉学研究科共通科目〕

授業科目の名称		配当 年次	単位数	
			必修	選択
看護福祉学研究科共通科目	研究方法論	1	2	
	研究方法各論Ⅰ（質的研究法）	1・2		2
	研究方法各論Ⅱ（量的研究法）	1・2		2
	研究方法各論Ⅲ（公衆衛生調査法）	1・2		2
	地域生活ケア論Ⅰ（高齢者）	1・2		1
	地域生活ケア論Ⅱ（精神障害）	1・2		1
	地域生活ケア論Ⅲ（緩和ケア）	1・2		1
	地域生活ケア論Ⅳ（子ども）	1・2		1
	異分野連携実践論	1・2		2
	遺伝医学・医療論	1・2		1
	ヘルスプロモーション論	1・2		2
	精神医学特論	1・2		2
	カウンセリング	1・2		2
	生殖医療文化論	1・2		1

＜看護学専攻修士課程修了要件＞

- 1) 看護学専攻コア科目のうち、専攻分野の特論Ⅰにおける2単位と演習Ⅰ・Ⅱにおける4単位、臨地実習Ⅰの2単位は必修科目とする。
- 2) 「看護学課題研究」6単位を修得する。ただし、高度実践コースの者は、「臨床看護学課題研究」2単位をもって替えることができる。
- 3) その他、看護学専攻コア科目、看護学専攻選択科目および看護福祉学研究科共通科目から18～22単位以上を修得する。
- 4) 原則として2年以上在学し、所定の授業科目について32単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

＜資格等取得に係る要件＞

- 1) 高度実践コース（CNS養成課程）の者が、専門看護師資格審査の受験資格を取得するためには、上記の修了要件を満たすほか、別に分野ごとに指定する科目の修得が必要である。
- 2) 高度実践コース（NP養成課程）の者は、上記の修士課程修了要件を満たすほか、別に指定する科目の修得が必要である。また、当該コースの別に指定する科目は、厚生労働省の定める特定行為研修として指定されている科目を含む。
- 3) 高度実践コース（NP養成課程）を修了するためには、コースで行う修了試験に合格することが必要である。

博士前期(修士)課程臨床福祉学専攻

授業科目の名称	配当 年次	単位数	
		必修	選択
【基礎領域】 [臨床福祉学特論] 社会福祉学原理特論	1		2
[臨床福祉学演習Ⅰ] 社会福祉学原理演習Ⅰ	1		2
[臨床福祉学演習Ⅱ] 社会福祉学原理演習Ⅱ	1・2		2
【援助領域】 [臨床福祉学特論] 障害福祉学特論	1		2
高齢者福祉学特論	1		2
児童福祉学特論	1		2
[臨床福祉学演習Ⅰ] 障害福祉学演習Ⅰ	1		2
高齢者福祉学演習Ⅰ	1		2
児童福祉学演習Ⅰ	1		2
[臨床福祉学演習Ⅱ] 障害福祉学演習Ⅱ	1・2		2
高齢者福祉学演習Ⅱ	1・2		2
児童福祉学演習Ⅱ	1・2		2
【俯瞰領域】 [臨床福祉学特論] 福祉疫学特論	1		2
教育福祉学特論	1		2
[臨床福祉学演習Ⅰ] 福祉疫学演習Ⅰ	1		2
教育福祉学演習Ⅰ	1		2
[臨床福祉学演習Ⅱ] 福祉疫学演習Ⅱ	1・2		2
教育福祉学演習Ⅱ	1・2		2

[臨地実習] 臨床福祉学実習	1	2	

[課題研究] 臨床福祉学課題研究	2	6	

〔選択科目〕	社会福祉政策学特論	1・2	2
	地域福祉情報論	1・2	2
	障害福祉研究	1・2	2
	福祉教育研究	1・2	2
	ソーシャルワーク特論	1・2	2
	医療福祉学研究	1・2	2

〔看護福祉学研究科共通科目〕

授業科目の名称	配当 年次	単位数	
		必修	選択
看護福祉学研究科共通科目	研究方法論	1	2
	研究方法各論Ⅰ（質的研究法）	1・2	2
	研究方法各論Ⅱ（量的研究法）	1・2	2
	研究方法各論Ⅲ（公衆衛生調査法）	1・2	2
	地域生活ケア論Ⅰ（老年者）	1・2	1
	地域生活ケア論Ⅱ（精神障害）	1・2	1
	地域生活ケア論Ⅲ（緩和ケア）	1・2	1
	地域生活ケア論Ⅳ（こども）	1・2	1
	異分野連携実践論	1・2	2
	遺伝医学・医療論	1・2	1
	ヘルスプロモーション論	1・2	2
	精神医学特論	1・2	2
	カウンセリング	1・2	2
	生殖医療文化論	1・2	1

《臨床福祉学専攻修士課程修了要件》

- 1) 臨床福祉学専攻コア科目のうち、専攻分野の特論科目2単位と演習Ⅰ・Ⅱにおける計4単位、臨地実習の2単位は必修科目とする。
- 2) 臨床福祉学課題研究6単位を修得する。
- 3) その他、臨床福祉学専攻コア科目、臨床福祉学専攻選択科目および看護福祉学研究科共通科目から18単位以上を修得する。
- 4) 原則として2年以上在学し、所定の授業科目について32単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

博士後期（博士）課程看護学専攻

授業科目の名称	配当 年次	単位数	
		必修	選択
[看護学専攻科目]			
【基礎・統合領域】			
基礎・統合看護論			
基礎看護論	1・2		2
看護管理論	1・2		2
地域看護論	1・2		2
感染看護論	1・2		2
基礎・統合看護論演習			
基礎看護論演習	1・2		4
看護管理論演習	1・2		4
地域看護論演習	1・2		4
感染看護論演習	1・2		4
【発達・障害領域】			
発達・障害看護論			
小児看護論	1・2		2
母性看護論	1・2		2
成人看護論	1・2		2
老年看護論	1・2		2
精神看護論	1・2		2
がん看護論	1・2		2
発達・障害看護論演習			
小児看護論演習	1・2		4
母性看護論演習	1・2		4
成人看護論演習	1・2		4
老年看護論演習	1・2		4
精神看護論演習	1・2		4
がん看護論演習	1・2		4
看護学特別研究	1～3	6	
[看護学専攻選択科目]			
【高度実践看護領域】			
高度実践看護論			
ヘルスアセスメント開発論	1・2		2

《修了要件》

- 1) 看護学専攻科目は、専攻領域の看護論科目2単位並びに演習科目4単位と「看護学特別研究」の6単位を含む合計12単位以上を修得する。
- 2) 看護福祉学研究科共通科目は選択履修とする。

所定の授業科目について12単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

博士後期（博士）課程臨床福祉学専攻

授業科目の名称	配当 年次	単位数	
		必修	選択
[臨床福祉学専攻科目]			
【基礎領域】			
福祉原論			
福祉原理論	1・2		2
福祉原論演習			
福祉原理論演習	1・2		4
【援助領域】			
福祉援助論			
障害福祉論	1・2		2
精神保健福祉論	1・2		2
高齢者福祉論	1・2		2
児童福祉論	1・2		2
福祉援助論演習			
障害福祉論演習	1・2		4
精神保健福祉論演習	1・2		4
高齢者福祉論演習	1・2		4
児童福祉論演習	1・2		4
【俯瞰領域】			
福祉展開論			
地域福祉論	1・2		2
教育福祉論	1・2		2
福祉展開論演習			
地域福祉論演習	1・2		4
教育福祉論演習	1・2		4
臨床福祉学特別研究	1～3		6
[看護福祉学研究科共通科目]			
授業科目の名称	配当 年次	単位数	
		必修	選択
病気・障害認識論	1・2		1
認知症ケア論	1・2		1
緩和ケア論	1・2		1
医療人類学論	1・2		1
疫学的研究方法論	1・2		1
現象学的研究方法論	1・2		1

《修了要件》

- 1) 臨床福祉学専攻科目は、専攻領域の福祉原論、福祉援助論、福祉展開論の中から2単位並びに演習科目4単位と「臨床福祉学特別研究」の6単位を含む合計12単位以上を修得する。
- 2) 看護福祉学研究科共通科目は選択履修とする。

所定の授業科目について12単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

(4) 心理科学研究科(臨床心理学専攻)

① 研究科の方針

【臨床心理学専攻 博士前期(修士)課程】

教育理念
本大学院の教育理念を基本として、心理科学の応用領域におけるより高度かつ実践的な専門的知識・技術力、および関連領域の科学技術の発展に対する知識を持ち、Scientist and Practitioner の立場から地域的・国際的に貢献しうる高度専門職業人の養成を目指し、もって人類の心の健康および心の教育研究の発展に寄与することを心理科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)の教育理念とする。
教育目的
心理科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)の教育理念に沿って、高度かつ実践的な専門的知識・技術力、および関連領域の科学技術の発展に対する知識を持ち、Scientist and Practitioner の立場から地域的・国際的に貢献しうる高度専門職業人の養成を本専攻の教育目的とする。
教育目標
心理科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。 1. 深い学識と豊かな人間性の涵養 2. 公認心理師としての高度な専門知識および学術の修得 3. 臨床心理学領域における研究能力と問題解決能力の涵養 4. 高度専門職業人としての臨床心理領域における社会的要請への対応力の涵養
学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
以下の要件を満たし、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として自立できる者と認められ、修了後は公認心理師として社会に貢献することが期待できる能力を修得した者に対して、「修士(臨床心理学)」の学位を授与する。 1. 心理科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)課程に2年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。 2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
心理科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。 1. 実証に基づく臨床心理学教育課程として、科学者・実践家モデルの視点を涵養しつつ、公認心理師を養成するカリキュラムを設ける。臨床現場に提供する人材の質を保证するために、関連する身体医学的領域の専門家ともチーム作業ができる実践家としての能力を育成するカリキュラムを設ける。 2. 講義科目の評価はプレゼンテーション・討論の参加状況や筆記試験、レポート等を用いて評価する。実習の評価は、プレゼンテーション・討論の参加状況とクライアントのアセスメント結果および心理的支援の実技等を通して行う。修士論文作成に当たり、指導担当教員による形成的評価を継続的にを行い、研究態度、課題研究到達度および最終年次における研究発表会、修士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。
入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
心理科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)では、保健・医療・福祉・教育、司法・産業の領域における心理臨床の高度専門家である公認心理師として、人類の幸福に貢献する志のある以下の資質を持った人材を求めます。 1. 大学における公認心理師養成カリキュラムを履修し、入学後に必要な知識および技能を修得している人 2. 心理臨床において、科学者実践家として幅広く心の問題に向き合う基礎的研究能力と志を有している人
修得すべき知識及び能力
① 公認心理師となるために必要な科目を中心として、公認心理師試験受験資格を得る。 ② 臨床現場において人の尊厳を重んじて Scientist and Practitioner として社会に貢献できる能力:具体的には、サービスを受ける側の視点、チーム医療への対応力、スクールカウンセラーへの対応力、ICT 等を活用した遠隔地支援スキルの能力

【臨床心理学専攻 博士課程】

教育理念
本大学院の教育理念を基本として、修士課程で得た心理科学に関する応用領域の専門性を Scientist and Practitioner としての立場からより精緻に教育研究し、さらに心理科学の立場から心の研究の後継者となりうる人材を養成し、もって人類の心の健康と心の教育研究により高度に寄与することを心理科学研究科臨床心理学専攻(博士課程)の教育理念とする。
教育目的
心理科学研究科臨床心理学専攻(博士課程)の教育理念に沿って、心理科学に関する応用領域の専門性を Scientist and Practitioner としての立場からより精緻に教育研究し、更に心理科学の立場から心の研究の後継者となりうる人材の養成を本専攻の教育目的とする。
教育目標
心理科学研究科臨床心理学専攻(博士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。 1. 深い学識と豊かな人間性の涵養 2. 臨床心理学領域における高度な専門知識および学術の修得 3. 臨床心理学の研究者・教育者としての高度な研究能力の涵養
学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
以下の要件を満たし、臨床現場、教育・研究領域において必要な指導的能力と研究能力を修得し、人の尊厳を重んじて、社会に貢献できると認められる者に対して、「博士(臨床心理学)」の学位を授与する。 1. 心理科学研究科臨床心理学専攻(博士課程)に3年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。 2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
心理科学研究科臨床心理学専攻(博士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。 1. 修士課程のカリキュラム履修を前提として、現場における指導者の能力、研究者としての能力を形成するために、基礎心理学および臨床心理学の両者にわたった幅広い教育カリキュラムを設ける。 2. 講義科目の評価はプレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて評価する。博士論文作成に当たり、指導担当教員による形成的評価を継続的にを行い、最終年次における研究発表会、口頭試問、学力検査および博士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)	
心理科学研究科臨床心理学専攻(博士課程)では、保健・医療・福祉・教育、司法・産業の領域における心理臨床の高度な教育指導者および研究者として、人類の幸福に貢献する志のある人材を求めます。 また、修士課程の能力に加えて、臨床の現場、教育・研究機関等において指導者となる志を持つ人材を求めます。	
修得すべき知識及び能力	
① 人の尊厳を重んじて、臨床現場、教育・研究領域において指導的能力と研究能力を修得し、社会に貢献できる能力	

② 研究科の概要

心理科学研究科は、明確な高度専門職業人養成教育プログラムを備えることに特色がある。
臨床心理学専攻は、心の障害に対処するため、心理科学を知識・技術の基盤として、徹底した evidence-based のアプローチによる専門性を発揮し、関連領域で協同できる専門家を育成する。具体的には、特に心理学を高度に応用した臨床心理学領域の高度専門職業人の養成をはじめ、この高度専門職業人を現場で指導できる研究能力に特化した人材を養成する。なお、博士前期課程では公認心理師試験受験資格を得るべく、公認心理師となるために必要な科目を中心としたカリキュラム変更を2018年に行った。

③ 修業年限・定員

- ・ 修士課程(臨床心理学専攻)：前期2年の課程 収容定員：40名(入学定員20名)
- ・ 博士課程(臨床心理学専攻)：後期3年の課程 収容定員：6名(入学定員2名)

④ カリキュラム編成

臨床心理学専攻 (博士前期課程)

授業科目の名称		配当年次	単位数	
			必修	選択
必修科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1	4	
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1	2	
	教育分野に関する理論と支援の展開	1	2	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1	2	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1	2	
	心理的アセスメントに関する理論と実践	1	4	
	心理支援に関する理論と実践	1	4	
	家族関係・集団・地域社会における	1	2	
	心理支援に関する理論と実践			
	心の健康教育に関する理論と実践	1	2	
	心理実践実習Ⅰ	2	6	
	心理実践実習Ⅱ	2	6	
	公認心理師課題演習	2	4	
	心理基礎実習Ⅰ	1	2	
	心理基礎実習Ⅱ	1	2	
	臨床心理学課題研究	1～2	8	
選択科目	精神薬理学	1		1
	臨床心理学研究法	1		2

臨床心理学専攻 (博士後期課程)

授業科目の名称	配当年次	単位数	
		必修	選択
学習心理学研究	1・2		2
生理心理学研究	1・2		2
臨床心理学研究	1・2		2
発達心理学研究	1・2		2
神経心理学研究	1・2		2
精神医学研究	1・2		2
高次脳機能障害学研究	1・2		2
人体機能学研究	1・2		2
臨床心理学特別研究	1・2	6	

〈修了要件〉

以下の各教科目履修を踏まえて、10単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

「学習心理学研究」「生理心理学研究」「臨床心理学研究」「発達心理学研究」の4教科目から1科目(2単位)以上及び「神経心理学研究」「精神医学研究」「高次脳機能障害学研究」「人体機能学研究」の4教科目から1科目(2単位)以上を修得し、「臨床心理学特別研究」とあわせて10単位以上を修得する。

(5) リハビリテーション科学研究科(リハビリテーション科学専攻)

リハビリテーション科学研究科は、高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉の現場において、先進的な専門知識と技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人ならびにリハビリテーション領域に関わる最先端の研究を通して培われた創造力・企画力・応用力をもって保健・医療・福祉現場や高等教育機関において指導的役割を担う人材を養成することを目的としている。

① 研究科の方針

【リハビリテーション科学専攻 博士前期(修士)課程】

教育理念

本大学院の教育理念を基本として、高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉分野において、先進的な専門知識と技術を身につけ、質の高いリハビリテーションを実践できる人材を養成することにより、人々の保健・医療・福祉の要請に応え、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)の教育理念とする。

教育目的

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)の教育理念に沿って、人々の健康と保健・福祉の向上にむけて、高度専門職業人としてリハビリテーション領域において実践的に寄与する人材の養成ならびにリハビリテーション医学・医療の研究・発展に貢献できる人材の養成を本専攻の教育目的とする。

教育目標

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 先進的な専門知識および技術を備え、質の高いリハビリテーションを展開できる人材の養成
2. 保健・医療・福祉の現場で、優れた管理・指導能力を持って指導的役割を担うことのできる人材の養成
3. 科学のおよび学際視点から臨床的課題を解決することのできる人材の養成

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

以下の要件を満たし、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得したと認められる者に対して、「修士(リハビリテーション科学)」の学位を授与する。

1. リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)に2年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。
2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 授業科目は、リハビリテーション領域における高度専門職業人としての管理・指導能力や研究遂行能力の基盤を培う「共通科目」、最新の専門知識と技術を学び臨床実践能力を高める「専門科目」、関連学問領域を学ぶ「応用特色科目」、ならびに「研究指導」によって構成される。
2. 共通科目には、組織をマネジメントする能力を育成するための教育法や管理学に加え、臨床研究を遂行する上で必要な研究法や統計学に関する科目を配当する。
3. 専門科目には、各障害に対するリハビリテーション学分野の最新知識と技術、障がい者や高齢者などの地域生活支援に関して学ぶ科目を配当する。
4. 応用特色科目には、学際領域であるリハビリテーション科学の臨床および研究実践に対応する上で必要な医科学系、心理学系、社会福祉学系の科目を配当する。
5. 研究指導では、修士論文作成を行い、リハビリテーション科学における諸課題を追及する。
6. 入学時志願者調査書や初期研究課題および学修カリキュラムにおける必修科目、選択科目の履修状況(修得単位数、GPA)、また、特論、演習科目の評価は、プレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて評価する。修士論文作成に当たり、指導担当教員による研究指導を研究科として系統的に行い、課題研究達成度および最終年次における論文審査、最終試験、公開最終発表会により査定する。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)では、地域における保健・医療・福祉の充実に携わることに強い意欲を持ち、高度専門職業人としてリハビリテーションの実践に寄与すべく自己研鑽できる人材を求めます。

大学院リハビリテーション科学研究科 院生が修得すべき知識及び能力

1. リハビリテーション専門職として、実際の保健・医療・福祉現場で求められる「課題解決能力」や「マネジメント能力」に加え、臨床研究を遂行する上で必要となる「臨床データを蓄積する能力」「病態を解析する能力」「結果を公表する能力(プレゼンテーション能力・論文作成能力)」
2. 学部教育で修得した解剖学、生理学、運動学などの医科学系知識をさらに深めた科学的基盤に基づいた臨床実践能力
3. クライアント個人の抱える社会的、家族的諸問題など様々なレベルの問題の障害像を個別化・細分化し、医学、心理、社会学等の観点から問題を把握し、対応できる能力および、これらの諸問題をチームとして共有し、多職種との適切な連携を図るためのコミュニケーション能力や組織をマネジメントする能力

【リハビリテーション科学専攻 博士課程】

教育理念

本大学院の教育理念を基本として、修士課程で修得したリハビリテーション科学に関する能力を基盤として、保健・医療・福祉分野における高度な学識と新たな真理を探究することのできる優れた研究能力を有する人材の養成と、リハビリテーション医療に対するすべての人々の要請に応え、保健・医療・福祉分野において科学的根拠に基づく専門能力を地域社会に適用し、指導的立場で活躍できる有能な教育者および実践指導者の養成を通して、社会の発展と人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(博士課程)の教育理念とする。

教育目的

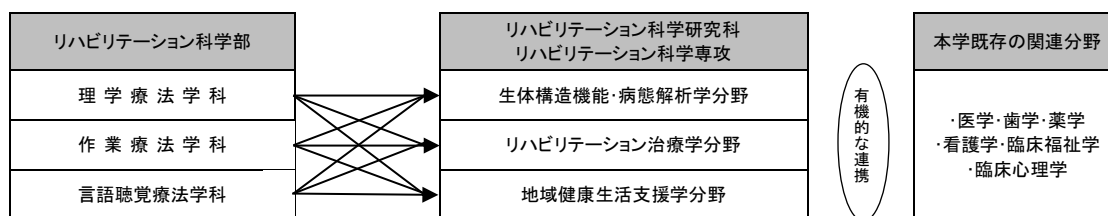
リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(博士課程)の教育理念に沿って、高度な研究能力、深い学識、豊かな人間性、および保健・医療・福祉分野において高度な実践能力を備えた指導的役割を担うことのできる人材の養成を本専攻の教育目的とする。

教育目標
リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(博士課程)の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。 1. 高度な学識と研究能力を備え、質の高いリハビリテーション科学の探究と確立に寄与できる人材の養成 2. 保健・医療・福祉の分野において、科学的根拠に基づく専門能力を地域社会に適用し、指導的立場で活躍できる有能な教育者および実践指導者の養成
学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
以下の要件を満たし、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力および教育能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できると認められる者に対して、「博士(リハビリテーション科学)」の学位を授与する。 1. リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(博士課程)に3年以上在学し、本研究科が定める履修上の要件を満たしている。 2. 研究指導を受け、学位論文を提出し、本研究科が行う論文審査および最終試験に合格している。
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(博士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。 1. 本専攻では、「生体構造機能・病態解析学分野」「リハビリテーション治療学分野」「地域健康生活支援学分野」の研究分野を設ける。 2. 授業科目は、各分野における特講・演習、ならびに研究指導によって構成される。 3. 研究指導では博士論文作成を行い、リハビリテーション科学を進化させ、科学的根拠を探究する。 4. 学修目標に対する教員評価、修了生アンケートなどの結果に加え、単位取得状況やGPAにより査定する。特論、演習科目の評価は、プレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて評価する。課題研究達成度および最終年次における論文審査、最終試験、公開最終発表会により査定する。また、研究能力を生かす高度医療専門職としての就業や就職率および研究への貢献を査定する。
入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(博士課程)では、リハビリテーション科学の発展に寄与し、リハビリテーション医療における科学的根拠を探究すべく先進的研究活動を実践できる研究者または指導的立場で活躍できる教育者および実践指導者を目指す強い意欲を持つ人材を求めます。
大学院リハビリテーション科学研究科 院生が修得すべき知識及び能力
1. リハビリテーション専門職として、実際の保健・医療・福祉現場で求められる「課題解決能力」や「マネジメント能力」に加え、臨床研究を遂行する上で必要となる「臨床データを蓄積する能力」「病態を解析する能力」「結果を公表する能力(プレゼンテーション能力・論文作成能力)」 2. 学部教育で修得した解剖学、生理学、運動学などの医科学系知識をさらに深めた科学的基盤に基づいた臨床実践能力 3. クライアント個人の抱える社会的、家族的諸問題など様々なレベルの問題の障害像を個別化・細分化し、医学、心理、社会学等の観点から問題を把握し、対応できる能力および、これらの諸問題をチームとして共有し、多職種との適切な連携を図るためのコミュニケーション能力や組織をマネジメントする能力

② 研究科の概要

リハビリテーション科学研究科は、高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉の現場において、先進的な専門知識と技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人、及びリハビリテーション領域に関わる最先端の研究を通して培われた創造力・企画力・応用力をもって保健・医療・福祉現場や高等教育機関において指導的役割を担う人材の養成をめざしている。

本研究科では、学部教育を発展させ、理学療法学と作業療法学さらに言語聴覚療法学の共通基盤をなす学問領域としてのリハビリテーション科学について追求していく。学部における理学療学科、作業療学科、言語聴覚療学科という3学科の枠組みを統合・再編し、「生体構造機能・病態解析学分野」「リハビリテーション治療学分野」及び「地域健康生活支援学分野」の3研究分野を柱として、教育・研究を推進する。また、学際領域としてのリハビリテーション科学を発展させるために、本学の関連諸分野(医学・歯学・薬学・看護学・臨床福祉学・臨床心理学)との有機的な連携を図りながら、教育・研究を推進する。



③ 各研究分野の特色と養成する人材像

1. 生体構造機能・病態解析学分野

理学療法、作業療法や言語聴覚療法をはじめとするリハビリテーションの科学的基盤となる分野であり、ヒトの正常な生体構造・機能や各種疾患に起因する生体構造・機能の変化とそのメカニズムを主な研究テーマとする。本分野には、解剖学、身体運動科学、運動・動作解析学の専門領域を置いて、リハビリテーションの科学的基盤となる医科学に関する最新知見を学習し、修得した専門知識と技術を活用しながら臨床課題を解決できる人材を育成する。

2. リハビリテーション治療学分野

各種障害に対するリハビリテーションの治療介入を主な研究テーマとする。本分野には、内部障害リハビリテーション、運動障害リハビリテーション、発達障害リハビリテーション、精神障害リハビリテーションの専門領域を設け、各種障害に対するリハビリテーションの最新知見を基に学習し、臨床現場において適切な障害評価と原因を追求できる、さらには科学的根拠に基づいたリハビリテーション治療介入を展開できる人材を育成する。

3. 地域健康生活支援学分野

地域社会において障害(児)者や高齢者が健康で主体的な生活を営んでいくための支援策を主な研究テーマとする。本分野には、作業行動学と地域生活支援学の領域を置いて、障害(児)者の日常生活活動への支援や高齢者の健康増進への取組等について学習し、医療のみならず保健や福祉の現場で対象者の生活を支援できる人材を養成する。

④ 修業年限・定員

博士前期（修士）課程（リハビリテーション科学専攻）：2年

収容定員10名（入学定員5名）

博士後期課程（リハビリテーション科学専攻）：3年

収容定員6名（入学定員2名）

⑤ カリキュラムの特色

- ・ 管理・指導能力や研究遂行能力を培うための基盤となる講義科目を配置した。臨床現場における管理・指導能力の育成を図るうえで必要な教育法と経営学を含む管理学、及び研究法と統計学に関する科目を必修とした。研究法は、研究計画立案と一般的な研究手法を複数科目に細分化し、詳細に学修できるよう設定した。「リハビリテーション管理学特論」では、リハビリテーション部門における組織作りや管理・運営について教授するとともに、多職種又は部門間の有機的・効果的な連携・協働について学び、臨床現場における組織をマネジメントする能力を育成する。
- ・ 応用特色科目は、各専門分野の臨床及び研究を遂行するうえで必要な関連学問領域に関する講義科目を配置した。学際領域としてのリハビリテーション科学における臨床及び研究実践に対応するうえで必要な医科学系、心理学系、社会福祉学系の学問領域を学べるよう設定した。
- ・ 臨床現場で要求される高度な専門的知識・技術の修得、すなわち高度専門職として必須の臨床実践及び研究遂行能力の基礎を身につけるため、専門科目及びリハビリテーション科学研究を設定した。専門科目は、各障害に対するリハビリテーション学分野の最新知識・技術や、近年のリハビリテーションにおいて重要な領域のひとつである障害者・高齢者等の地域生活支援に関して学ぶ科目を設定し、各自の研究課題に応じて履修することとした。
- ・ 専門科目では、講義や国内外の文献レビュー等により先進的なリハビリテーション技術を学ぶ。さらに、学生が社会人の場合は、在職医療機関等における臨床実践を基に、一般学生の場合は、連携医療機関等における臨床実践を基に、それぞれの事例検討を通じて、科学的根拠に基づきリハビリテーション介入を展開できる臨床実践能力を涵養していく。
- ・ 専門科目及びリハビリテーション科学研究法では、本学が有する優れた解剖学や生理学をはじめとする基礎医学研究設備、3次元動作解析システム等の最新の運動・動作計測機器、バリアフリーラボといった先進的な教育研究設備を十分に活用して学ぶこととし、科学的視点を実践的に修得できるようにした。

⑥カリキュラム編成

リハビリテーション科学研究科 博士前期(修士)課程

科目 区分	授業科目の名称		配当 年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	リハビリテーション研究法特論Ⅰ(研究計画)		1	2	
	リハビリテーション研究法特論Ⅱ(量的研究)		1	2	
	リハビリテーション研究法特論Ⅲ(質的研究&事例研究)		1	2	
	リハビリテーション教育特論		1・2	2	
	リハビリテーション管理学特論		1・2	2	
	保健医療統計学特論		1	2	
	リハビリテーション科学概論		1・2	2	
	医療英語特論		1・2	2	
	医療経済学特論		1・2	2	
	生命科学特論		1・2	2	
	精神保健学特論		1・2	2	
	心理学特論		1・2	2	
	医療倫理学特論		1・2	2	
専門科目	生体構造機能・病態解析学分野	解剖学特論	1・2	2	
		解剖学演習	1・2	2	
		身体運動科学特論	1・2	2	
		身体運動科学演習	1・2	2	
		運動・動作解析学特論	1・2	2	
		運動・動作解析学演習	1・2	2	
		先天異常学特論	1・2	2	
		先天異常学演習	1・2	2	
		臨床バイオメカニクス特論	1・2	2	
		臨床バイオメカニクス演習	1・2	2	
	リハビリテーション治療学分野	内部障害リハビリテーション学特論	1・2	2	
		内部障害リハビリテーション学演習	1・2	2	
		運動障害リハビリテーション学特論	1・2	2	
		運動障害リハビリテーション学演習	1・2	2	
		身体障害リハビリテーション学特論	1・2	2	
		身体障害リハビリテーション学演習	1・2	2	
		発達障害リハビリテーション学特論	1・2	2	
		発達障害リハビリテーション学演習	1・2	2	
		認知言語発達障害リハビリテーション治療学特論	1・2	2	
		認知言語発達障害リハビリテーション治療学演習	1・2	2	
		聴覚障害リハビリテーション治療学特論	1・2	2	
		聴覚障害リハビリテーション治療学演習	1・2	2	
		発声発語障害リハビリテーション治療学特論	1・2	2	
		発声発語障害リハビリテーション治療学演習	1・2	2	
		摂食嚥下障害リハビリテーション治療学特論	1・2	2	
		摂食嚥下障害リハビリテーション治療学演習	1・2	2	
		高次脳機能障害リハビリテーション学特論	1・2	2	
		高次脳機能障害リハビリテーション学演習	1・2	2	
		失語症リハビリテーション治療学特論	1・2	2	
		失語症リハビリテーション治療学演習	1・2	2	
		精神障害リハビリテーション学特論	1・2	2	
		精神障害リハビリテーション学演習	1・2	2	
	支援学分野	地域健康支援学特論	1・2	2	
		地域健康支援学演習	1・2	2	
		地域生活支援学特論	1・2	2	
		地域生活支援学演習	1・2	2	
応用特色科目	言語聴覚障害学フィールド・スタディ		1・2	2	
	コミュニケーション障害学特論		1・2	2	
	音楽療法特論		1・2	2	
	臨床リハビリテーション学(訪問)Ⅰ		1・2	2	
	臨床リハビリテーション学(訪問)Ⅱ		1・2	2	
	臨床リハビリテーション学(認知症)Ⅰ		1・2	2	
	臨床リハビリテーション学(認知症)Ⅱ		1・2	2	
	臨床リハビリテーション学(がん)Ⅰ		1・2	2	
	公衆衛生調査法		1・2	2	
	障害福祉学特論		1・2	2	
高齢者福祉学特論		1・2	2		
指導研究	リハビリテーション科学研究		2	8	
■授業科目履修方法					
・共通科目から10単位以上を履修する。					
・専門科目から専攻する領域の特論・演習科目4単位以上を履修する。					
・研究指導8単位を履修する。					
・上記ならびに選択科目を含め、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。(ただし、専門科目の演習は同一科目名の特論の履修を条件とする。)					

リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程

科目 区分	授業科目の名称		配当 年次	単位数	
				必修	選択
共通 科目	リハビリテーション研究法特講		1	1	
	リハビリテーション実践指導特講		1	1	
専門 科目	生体構造機能・病態解析学特講Ⅰ		1		2
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅱ		1		2
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅲ		1		2
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅳ		1		2
	生体構造機能・病態解析学特講Ⅴ		1		2
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅰ		1		2
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅱ		1		2
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅲ		1		2
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅳ		1		2
	生体構造機能・病態解析学演習Ⅴ		1		2
	リハビリテーション治療学特講Ⅰ		1		2
	リハビリテーション治療学特講Ⅱ		1		2
	リハビリテーション治療学特講Ⅲ		1		2
	リハビリテーション治療学特講Ⅳ		1		2
	リハビリテーション治療学特講Ⅴ		1		2
	リハビリテーション治療学特講Ⅵ		1		2
	リハビリテーション治療学特講Ⅶ		1		2
	リハビリテーション治療学演習Ⅰ		1		2
	リハビリテーション治療学演習Ⅱ		1		2
	リハビリテーション治療学演習Ⅲ		1		2
	リハビリテーション治療学演習Ⅳ		1		2
	リハビリテーション治療学演習Ⅴ		1		2
	リハビリテーション治療学演習Ⅵ		1		2
	リハビリテーション治療学演習Ⅶ		1		2
	地域健康生活支援学特講Ⅰ		1		2
	地域健康生活支援学特講Ⅱ		1		2
	地域健康生活支援学演習Ⅰ		1		2
	地域健康生活支援学演習Ⅱ		1		2
特別 研究	リハビリテーション科学特別研究		1～3	6	
■授業科目履修方法 ・共通科目2単位(必修)を履修する。 ・専門科目のうち専攻する専門領域の特講・演習科目4単位を履修する。 ・特別研究6単位を履修する。 ・上記、合計12単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。					

(6)学位授与状況

		学位・名称	2016 年度	2017 年度	2018 年度	累計
薬学研究科						
博士前期(修士)	薬学専攻 (廃止済)	修士 (薬学)	—	—	—	300 (78)
	医療薬学専攻 (廃止済)	修士 (薬学)	—	—	—	190 (80)
	生命薬科学専攻	修士 (生命薬科学)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
博 士 後 期	薬学専攻	博士 (薬学)	課程 1 (0) 論文 1 (0)	課程 0 (0) 論文 1 (0)	課程 2 (1) 論文 2 (0)	課程 32 (8) 論文 31 (6)
歯学研究科						
博 士	歯学専攻	博士 (歯学)	課程 6 (1) 論文 1 (0)	課程 11 (4) 論文 0 (0)	課程 7 (1) 論文 0 (0)	課程 238 (51) 論文 82 (6)
看護福祉学研究科						
博士前期(修士)	看護学専攻	修士 (看護学)	16 (12)	13 (11)	14 (11)	290 (261)
	臨床福祉・心理学専攻 (廃止済)	修士 (臨床福祉学)	—	—	—	20 (11)
		修士 (臨床心理学)	—	—	—	81 (61)
	臨床福祉学専攻	修士 (臨床福祉学)	5 (3)	3 (1)	6 (4)	58 (29)
博 士 後 期	看護学専攻	博士 (看護学)	課程 0 (0) 論文 0 (0)	課程 1 (1) 論文 0 (0)	課程 1 (1) 論文 0 (0)	課程 19 (17) 論文 2 (2)
	臨床福祉・心理学専攻 (廃止済)	博士 (臨床福祉学)	—	—	—	2 (1)
		博士 (臨床心理学)	—	—	—	5 (3)
	臨床福祉学専攻	博士 (臨床福祉学)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
心理科学研究科						
博士前期(修士)	臨床心理学専攻	修士 (臨床心理学)	10 (5)	10 (6)	10 (7)	151 (91)
	言語聴覚学専攻	修士 (言語聴覚学)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	16 (13)
博 士 後 期	臨床心理学専攻	博士 (臨床心理学)	課程 1 (0) 論文 0 (0)	課程 2 (1) 論文 1 (1)	課程 0 (0) 論文 0 (0)	課程 17 (5) 論文 2 (1)
	言語聴覚学専攻	博士 (言語聴覚学)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
リハビリテーション科学研究科						
博士前期(修士)	リハビリテーション科学専攻	修士 (リハビリテーション科学)	4 (1)	4 (0)	5 (0)	18 (1)
博士後期(博士)	リハビリテーション科学専攻	博士 (リハビリテーション科学)	—	—	1 (0)	1 (0)

数字は学位を授与された人数、() 内は女性数で内数

(7)進路状況

① 薬学研究科

		2017 年度	2018 年度
薬剤師・教員	北海道		北海道医療大学、北成病院

② 歯学研究科

		2017 年度	2018 年度
教員・研究員	北海道	北海道医療大学	北海道医療大学
	海外	インドネシア大学	カトマンズ大学
歯科医師	北海道	北海道医療大学病院、北海道医療大学歯科クリニック	市岡歯科医院

③ 看護福祉学研究科 看護学専攻

		2017 年度	2018 年度
看護師	北海道	カレス訪問看護ステーション、北海道循環器病院、札幌西円山病院、砂川市立病院、江別谷藤病院、市立札幌病院、江別市立病院、北海道医療センター、北海道大野記念病院、天使病院	北海道医療大学訪問看護ステーション、カレスサッポロ北光記念病院、NTT 東日本札幌病院、恵佑会札幌病院、済生会小樽病院、札幌佐藤病院、石金病院、北海道大学病院、エナレディースクリニック、旭川医療センター
教員	北海道	北海道医療大学、札幌保健医療大学	北海道医療大学、札幌保健医療大学、日本医療大学、北海道文教大学

④ 看護福祉学研究科 臨床福祉学専攻

		2017 年度	2018 年度
相談員・指導員・心理士 等	北海道	桑園病院、ほくろう福祉協会	カレスサッポロ時計台記念病院、東札幌病院、ほくろう福祉協会
教員・行政機関	北海道		札幌医学技術福祉歯科専門学校
看護師	北海道		江別すずらん病院
	北海道外	エムシーメディアン	
進学	北海道		北海道医療大学大学院

⑤ 心理科学研究科 臨床心理学専攻

		2017 年度	2018 年度
心理士・教員等	北海道	北海道ケア・サポート、ときわ病院	五稜会病院、北見赤十字病院、釧路赤十字病院、砂川市立病院、ときわ病院、に・こ・ば、太陽の園、うらかわエマオ診療所、ラブアリス北広島、おはな
	北海道外	東京医科大学、福島県立医科大学医療人育成・支援センター	
進学	道内	北海道医療大学大学院	

⑥ 心理科学研究科 言語聴覚学専攻

		2017 年度	2018 年度
言語聴覚士	北海道外		LITALIKO

⑦ リハビリテーション科学研究科

		2017 年度	2018 年度
理学療法士・作業療法士・教員等	北海道	北海道医療大学病院、札幌緑愛病院、クラーク病院、吉田学園リハビリテーション大学校	カレスサッポロ時計台記念病院、札幌西円山病院、札幌第一病院、篠路整形外科、星が浦、東北文化学園大学